

平成 29 (2017) 年度 学習院大学 在学生調査

第 1 章 基本集計結果

調査概要

調査目的	本学の教育の成果を定量的に分析するための基礎的データをとるとともに、在学生本人が大学生活を振り返るための経時的データを蓄積すること。
調査対象	本学学部学生全員 ※調査期間において休学中・留学中等の者を個別に除く。
調査時期	1～3年生： 毎年度1月下旬～3月頃（当該年度の授業・試験の終了時期以降） 4年生： 毎年度4月上旬～5月頃（卒業が確定した学生のみを対象とする）
調査方法	ラーニング・ポートフォリオシステム「manaba」を経由した Web アンケート形式 （在学生調査システムは本学計算機センター内にサーバを設置、「manaba」にログイン後シングルサインオンによりアクセスする。）
調査項目	<ul style="list-style-type: none">○共通項目<ul style="list-style-type: none">当該学年の授業期間における学習や課外活動について定期試験や期末課題のために行った学習時間（1年生以外）休業期間における学習や課外活動（1年生以外）当該学年の間に身につけた知識・能力在学期間中の留学経験と日数（3、4年生のみ） ○1年生のみ<ul style="list-style-type: none">大学入学時点までの学習習慣や成績○2年生のみ<ul style="list-style-type: none">なし（全学年共通の項目を自らが1年生のときと2年生のときの両方の場合にかけて調査した）○3年生のみ<ul style="list-style-type: none">なし○4年生のみ<ul style="list-style-type: none">卒業論文・卒業研究の執筆について大学時代に楽しみだった科目キャリアセンターの行事について卒業後の進路教育や学生生活の満足度

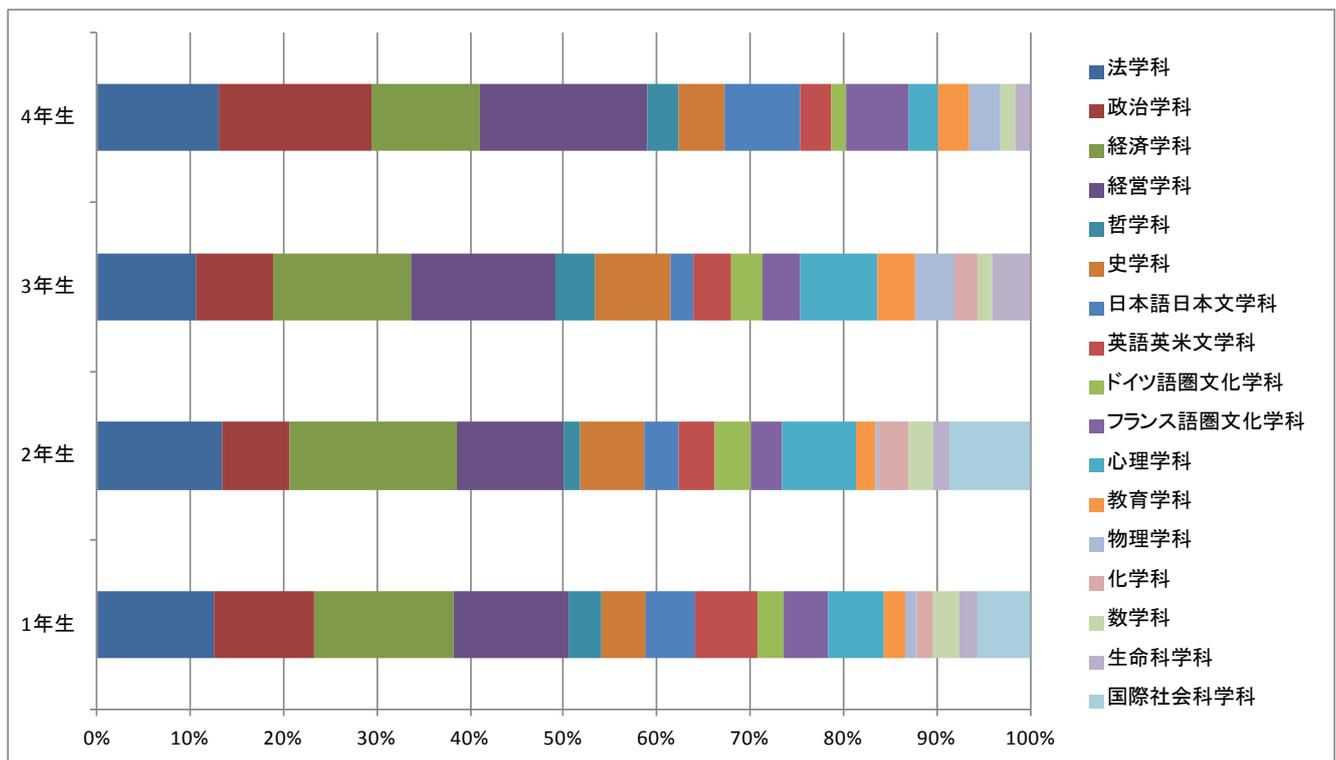
回答状況

・全体的な回答状況

学年	対象者数	回答者数			
		全問回答	一部回答	合計	分析数※
1年生	2,333	505 (21.6%)	132 (5.7%)	637 (27.3%)	616 (26.4%)
2年生	2,255	210 (9.3%)	264 (11.7%)	474 (21.0%)	290 (12.9%)
3年生	2,004	111 (5.5%)	70 (3.5%)	181 (9.0%)	122 (6.1%)
4年生	1,844	50 (2.7%)	51 (2.8%)	101 (5.5%)	61 (3.3%)
全体	8,436	—	—	—	1,089 (12.9%)

※「分析数」…少なくとも2問以上に回答した学生のデータを分析に用いた。

・各学年の学科ごとの回答者

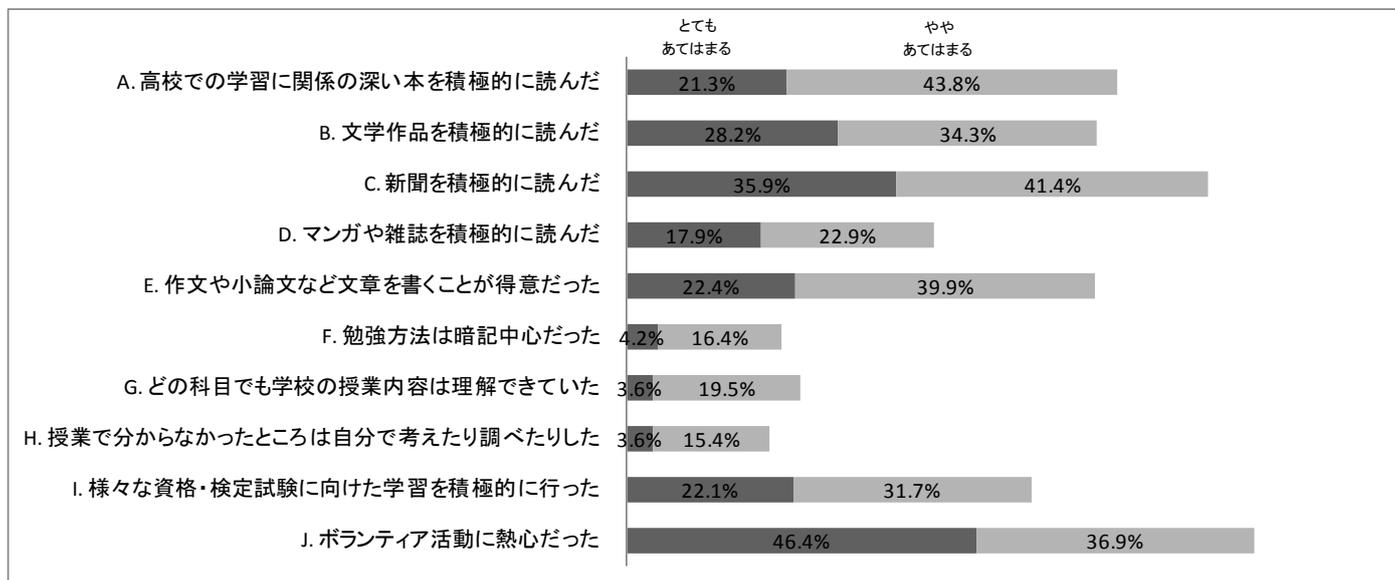


	法学科	政治学科	経済学科	経営学科	哲学科	史学科	日本語日本文学科	英語英米文学科	ドイツ語圏文化学科	フランス語圏文化学科	心理学科	教育学科	物理学科	化学科	数学科	生命科学科	国際社会科	全体 (全対象者に対する割合)
1年生	77 12.5%	66 10.7%	93 15.1%	75 12.2%	22 3.6%	29 4.7%	33 5.4%	41 6.7%	17 2.8%	30 4.9%	36 5.8%	14 2.3%	8 1.3%	11 1.8%	17 2.8%	12 1.9%	35 8.6%	616 26.4%
2年生	39 13.4%	21 7.2%	52 17.9%	33 11.4%	5 1.7%	20 6.9%	11 3.8%	11 3.8%	11 3.8%	10 3.4%	23 7.9%	6 2.1%	1 0.3%	9 3.1%	8 2.8%	5 1.7%	25 8.6%	290 12.9%
3年生	13 10.7%	10 8.2%	18 14.8%	19 15.6%	5 4.1%	10 8.2%	3 2.5%	5 4.1%	4 3.3%	5 4.1%	10 8.2%	5 4.1%	5 4.1%	3 2.5%	2 1.6%	5 4.1%	0 0.0%	122 6.1%
4年生	8 13.1%	10 16.4%	7 11.5%	11 18.0%	2 3.3%	3 4.9%	5 8.2%	2 3.3%	1 1.6%	4 6.6%	2 3.3%	2 3.3%	2 3.3%	0 0.0%	1 1.6%	1 1.6%	0 0.0%	61 3.3%

1年生への質問項目

大学入学時点までのことがら

Q01 高校時代のあなたの習慣について、あてはまるものを1つ選んでください。
 (「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法)



●割合が高い項目 (「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」の合計)

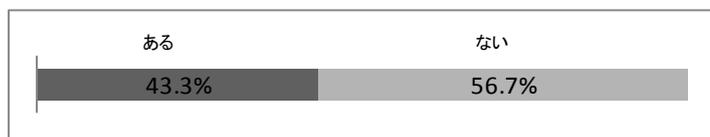
「J. ボランティア活動に熱心だった」(83.3% : A~J 中で最多)

その他、A、B、C、E など、読み書きに関する学習習慣は比較的高い結果であった。

●割合が低い項目

F、G、H は、すべて 25%未満。暗記したり、自分で調べたりといった知識を充実させる学習習慣は、高校時代にはなかった傾向が顕著であった。

Q02 あなたは、中学・高校時代に、海外で過ごした経験 (留学や短期研修旅行、修学旅行なども含む) がありますか。



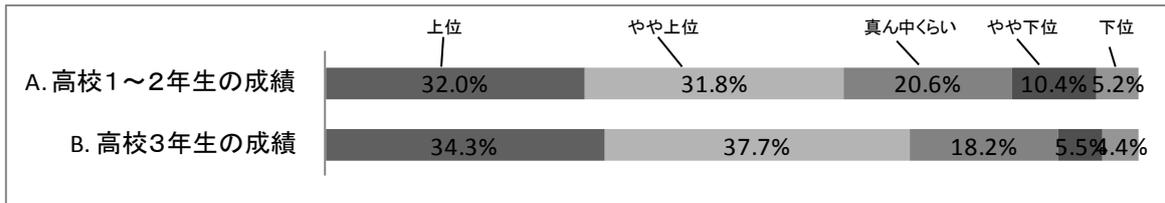
1週間(7日)未満	64
1週間以上2週間(14日)未満	70
2週間以上1ヶ月(30日)未満	81
1ヶ月以上2ヶ月(60日)未満	27
2ヶ月以上1年未満	15
1年以上	11

留学・海外経験のある学生の平均日数… **58.9日** (最短1日～最長920日)

留学・海外経験があると答えた学生は、分析数の4割を超えて267名(後述の3・4年生の結果も参照)で、日数の平均は、58.9日となった。期間ごとの内訳は上表右の通りで、2週間以上の海外経験者が134名(経験者のうち50%)であった。このことから、1年生は中学・高校時代に海外で長期間過ごした経験者が比較的多いことがうかがえる。

Q03 あなたの高校時代の成績はどのくらいだったと思いますか。

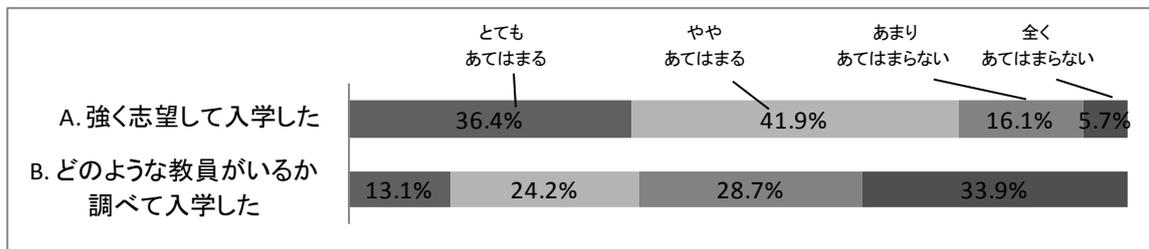
(「上位」～「下位」の5件法)



高校3年生の成績は比較的上位であったと答えた学生が72.0%（「上位」、「やや上位」）と、多くの学生は上位にいたと感じていることがうかがえる。

Q04 あなたが入学した学科について、あてはまるものを1つ選んでください。

(「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法)



学習院へ「強く志望して入学した」と答えた学生は78.2%（「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」）で、学生の多くは本学への志望度が高かったことがうかがえる。しかし、どのような教員がいるかまでを調べる学生は37.3%と比較的少ない。

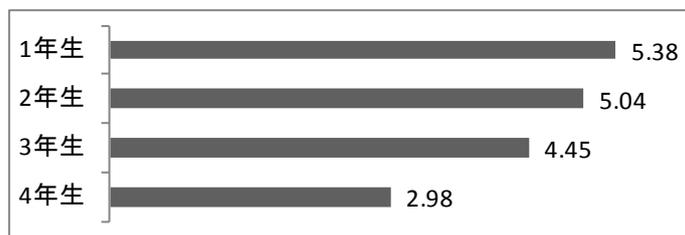
このことから、強く志望はしていても、どのような大学かという概要を調べるだけにとどまる学生が多いことが分かる。

各学年共通項目

授業期間中における学習や課外活動

Q01 あなたは、授業期間中、大学には1週間あたり平均で何日くらい来ていましたか。

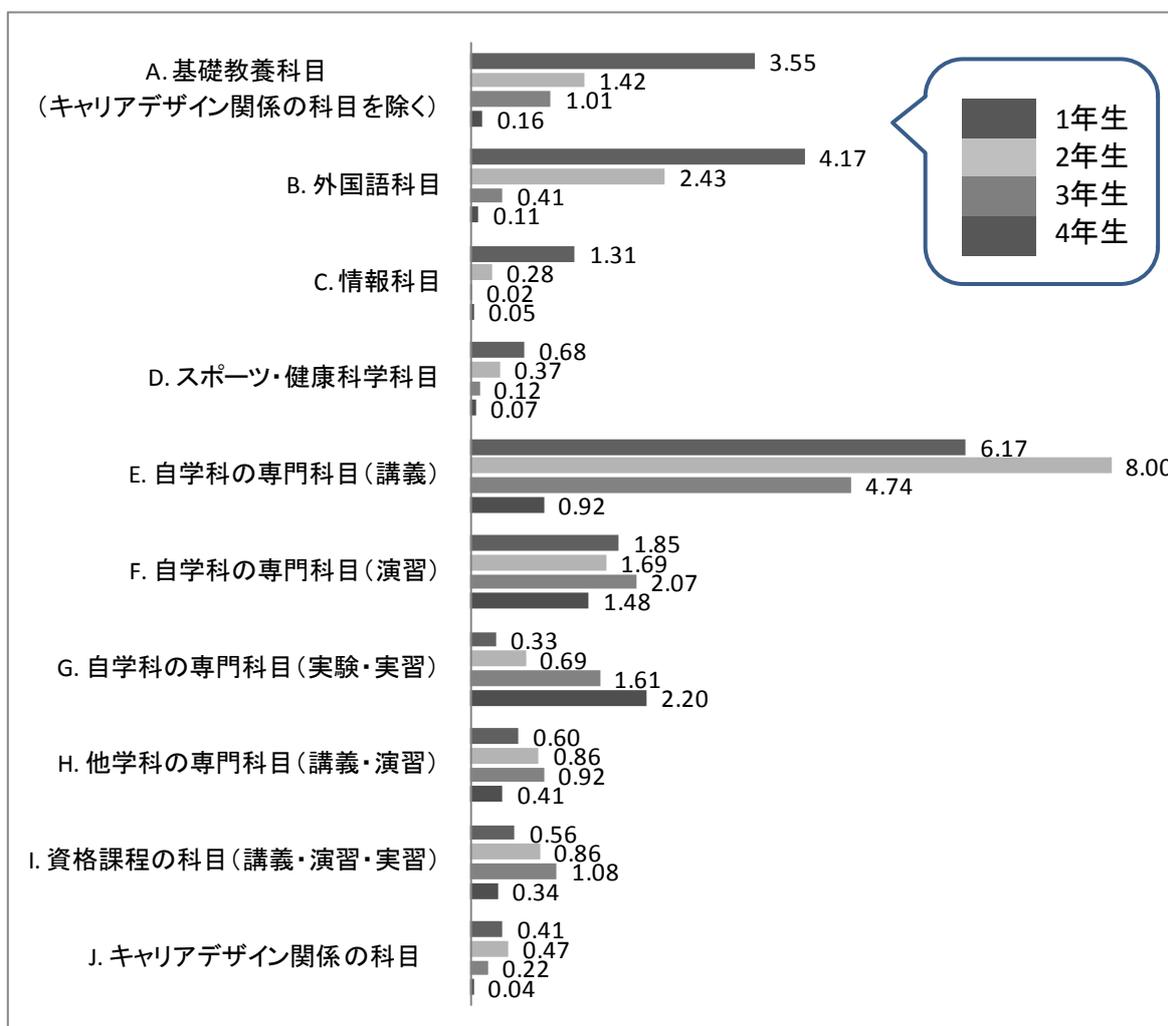
(日数で回答)



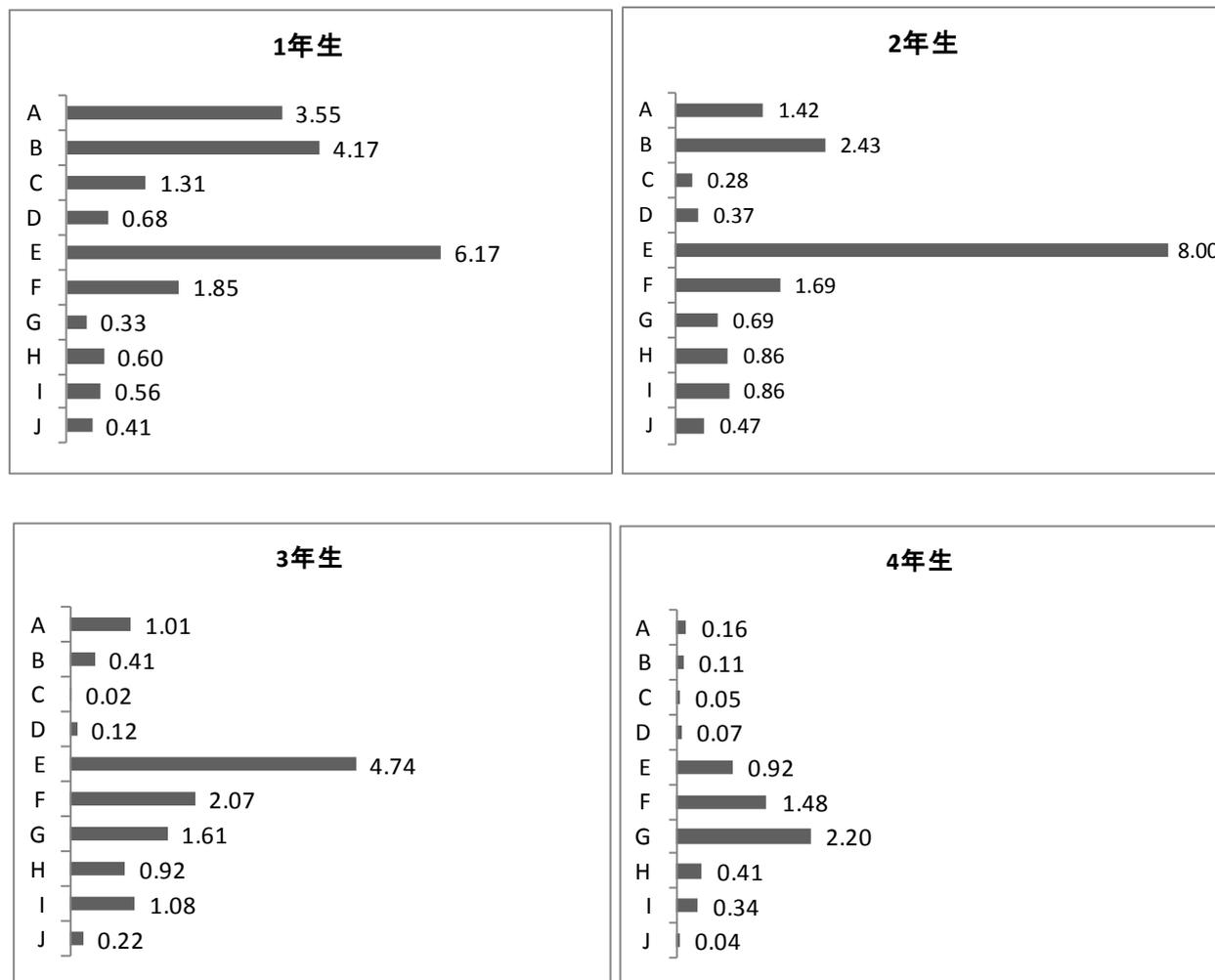
Q02 あなたは、授業期間中、以下の授業に1週間あたり平均でどのくらいの時間出席していましたか。

(時間数で回答)

全学年比較



学年毎の項目別比較



【全学年の比較から】

基礎教養科目、外国語科目は、1年生が最も時間を使っており、学年が上がるにつれ少なくなり、4年生ではほぼ受講されていない。情報科目、スポーツ・健康科学科目については、1・2年生でほぼ必要な科目の履修が完了していることがうかがえる。

自学科の専門科目への出席時間は、講義では2年生で最も時間数が多く、4年生ではかなり減少する。多くの学生が、3年生までに必要な講義科目の履修を完了していることがうかがえる。一方、演習では、4年間を通じてほぼ一定の時間数が取られており、実験・実習になると4年生になるにつれて時間数は増大していく。他学科の専門科目・資格課程の科目への出席時間は、3年生までに少しずつ増え、4年生ではほとんど取られていない。キャリアデザイン関係の科目では、1・2年生で時間が取られ、3年生で減り、4年生ではほとんど取られていない。

【学年ごとの項目別比較から】

1年生では、自学科の専門科目（講義）、基礎教養科目、外国語科目に多くの時間が割かれている。2年生も1年生と同様の傾向だが、基礎教養科目・外国語科目の割合が若干減り、自学科の専門科目（講義）に集中していく様子が表れている。3年生では、自学科の専門科目に注力し、講義だけでなく演習、実験・実習の比重も多くなっている。4年生では、自学科の演習や実験・実習が主となっている。

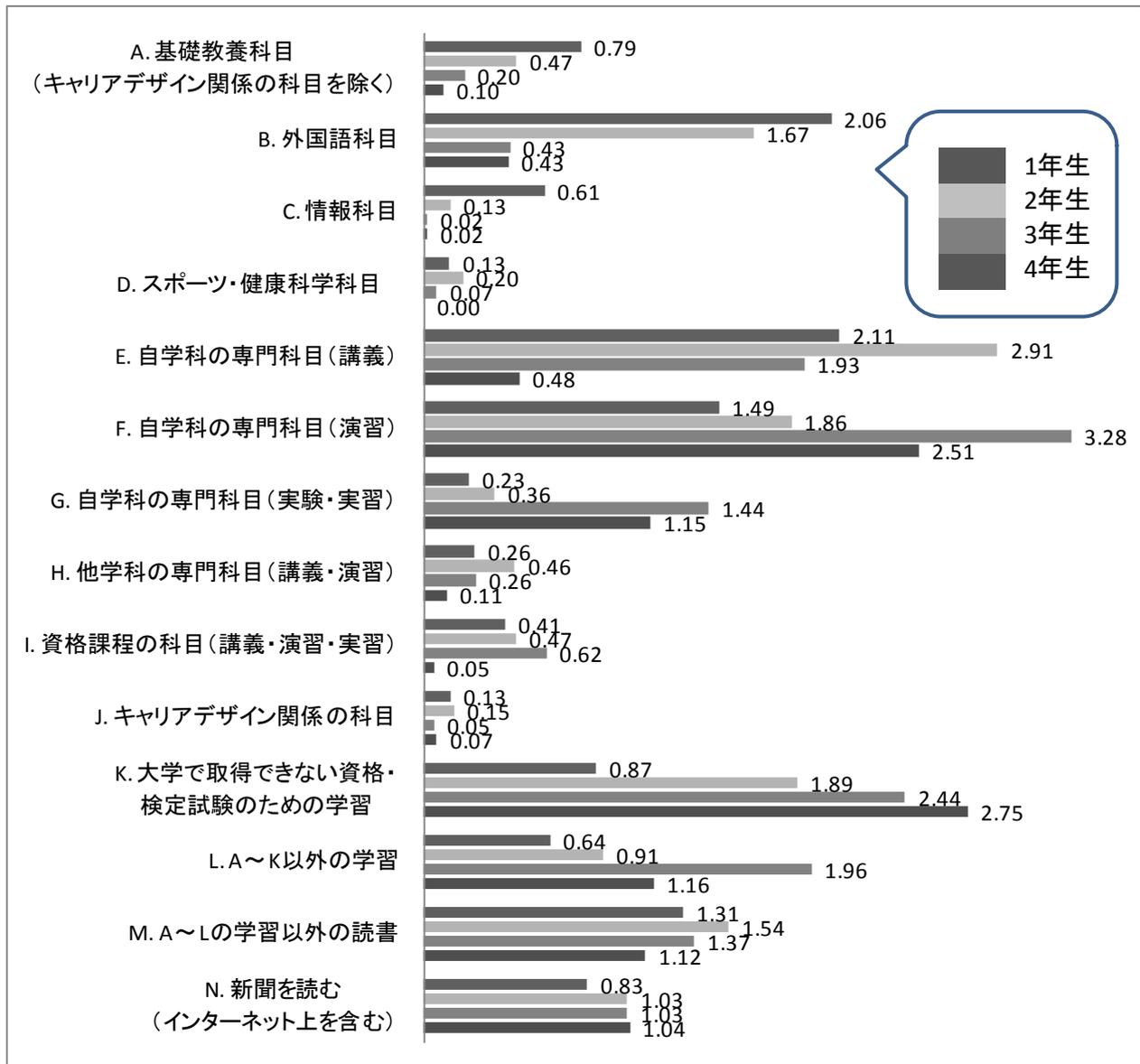
カリキュラムを鑑みても、学年が上がるにつれて講義が減り、演習、実験・実習の比重が大きくなることは想定され、学生がおおよそカリキュラムどおりに履修できていることがうかがえる。

Q03 あなたは、授業期間中、以下のことがらに1週間あたり平均でどのくらい時間をつかいましたか。

(時間数で回答)

授業関連項目

(A~Lは、各科目に関する授業時間外の学習(予習・復習・課題作成など)の時間を指す)

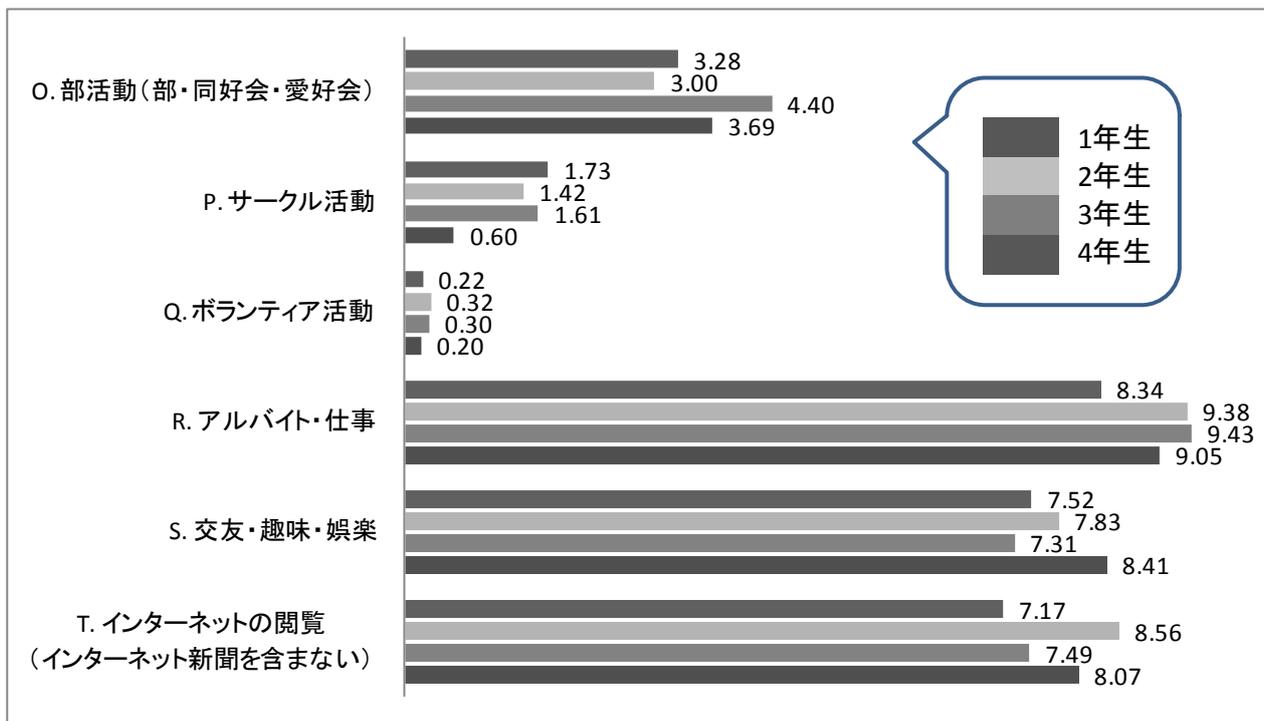


【授業関連の学習項目】

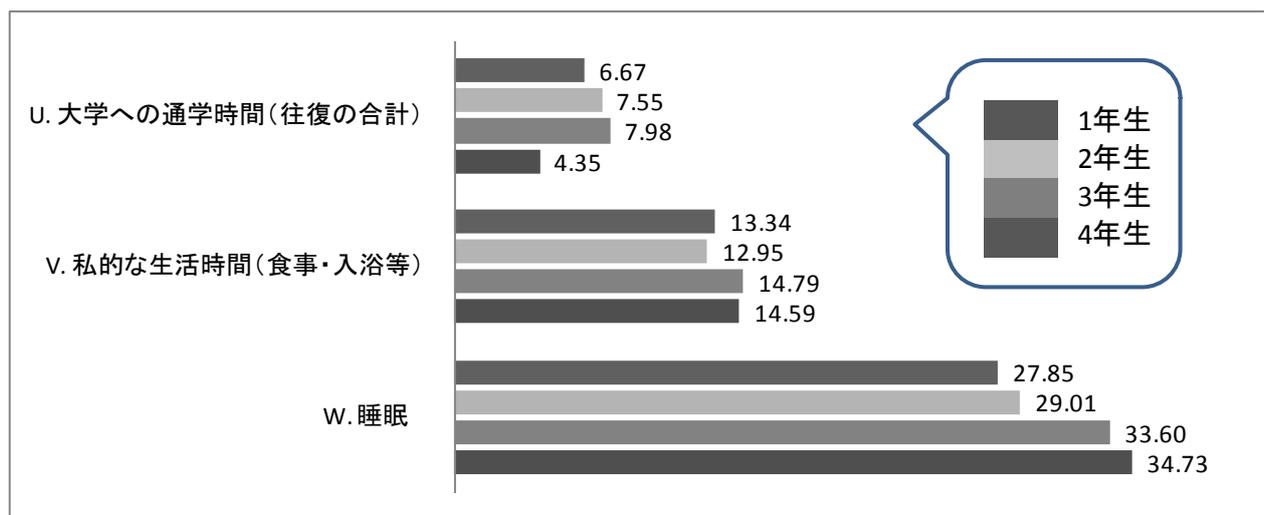
授業への出席時間の傾向とほぼ同様の傾向が読み取れる。また、大学で取得できない資格・検定試験のための学習は、学年が上がるごとに伸びていくことが分かる。

A~K以外の学習では、3年生が最も顕著に時間を使っており、4年間で最も余裕のある学習行動ができる学年といえるだろう。上記に関連しない読書(項目M)には、どの学年の学生もある程度の時間を割いている。

課外活動関連項目



生活関連項目



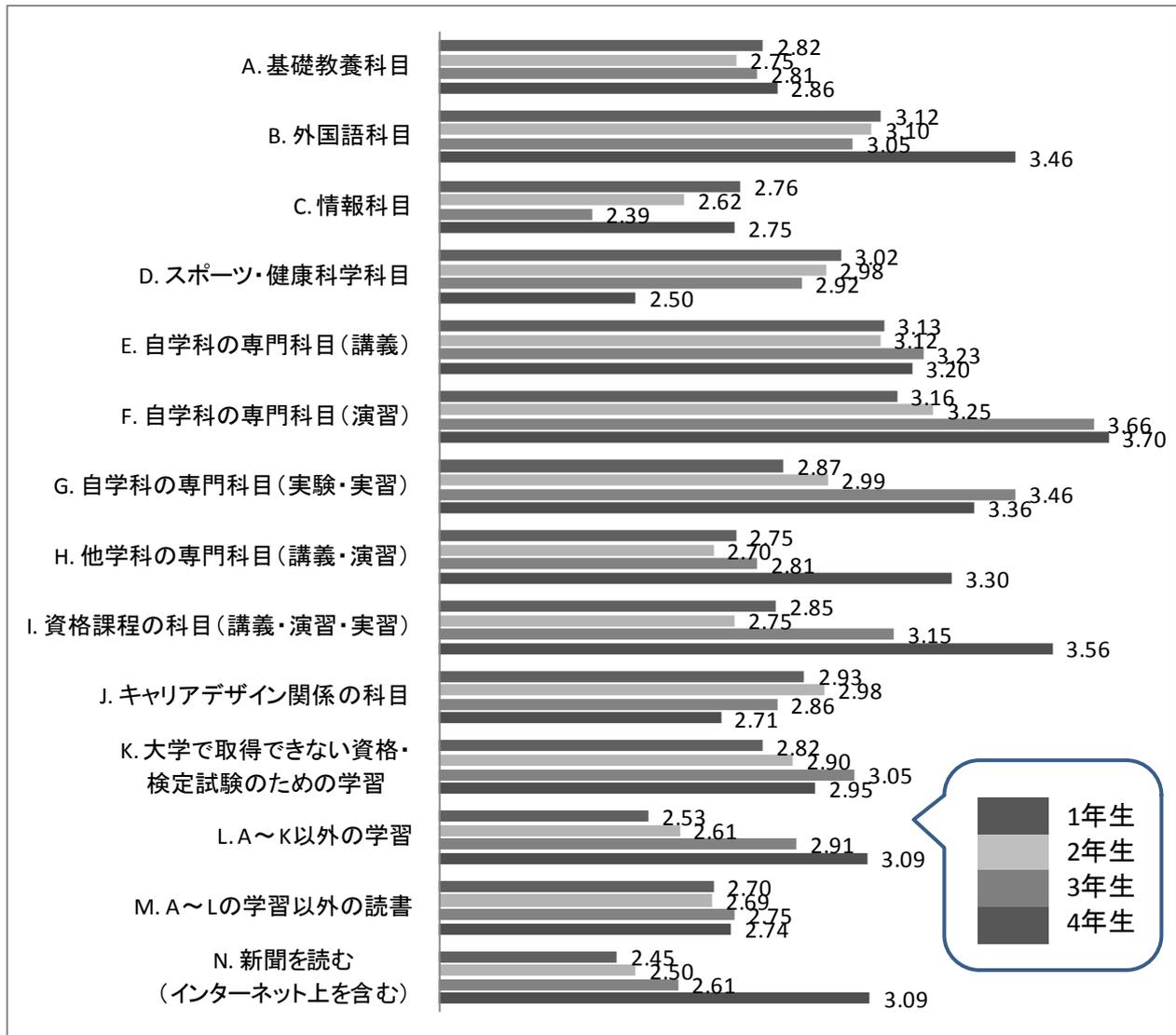
【課外活動関連項目、生活関連項目】

比較的どの項目も安定しており、学年間の変化が少ない。サークル活動では4年生の参加は少なくなるが、部活動では4年生になってもほぼペースダウンせず参加していることが分かる。アルバイトの時間は、平均してどの学年も1週間あたり9時間程度(週3日であれば1日あたり3時間程度)であった。

睡眠時間は、1日にすると平均5時間未満であり、授業期間中の忙しさがうかがえる。

Q04 あなたは、授業期間中、大学の授業やその他の学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。

(「経験しなかった」を0とし、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」(1)の5件法)



※ 経験ありの者の回答の平均 (0は計算に含まない)

各項目について経験のあった人数

	1年生	2年生	3年生	4年生
A. 基礎教養科目	419	122	52	7
B. 外国語科目	483	164	40	13
C. 情報科目	497	53	18	8
D. スポーツ・健康科学科目	304	55	25	6
E. 自学科の専門科目(講義)	493	203	101	25
F. 自学科の専門科目(演習)	429	161	106	43
G. 自学科の専門科目(実験・実習)	135	72	39	14
H. 他学科の専門科目(講義・演習)	202	92	52	10
I. 資格課程の科目(講義・演習・実習)	186	68	39	9

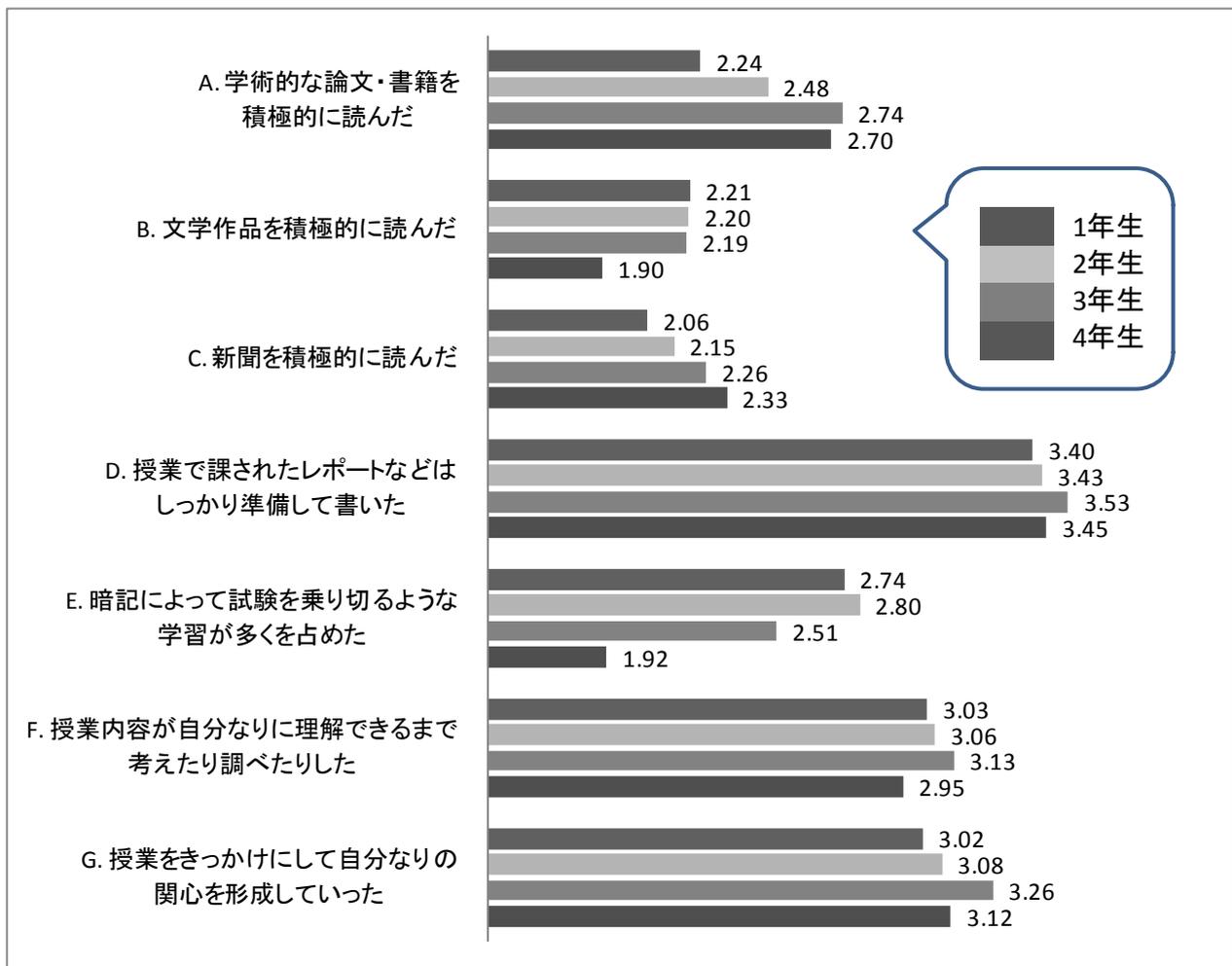
J. キャリアデザイン関係の科目	193	89	28	7
K. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	207	98	55	22
L. A～K 以外の学習	254	95	54	23
M. A～L の学習以外の読書	346	143	80	27
N. 新聞を読む (インターネット上を含む)	376	150	94	32

上表のように、回答者のうち経験した人数が極端に少ない項目が含まれるため、結果に関しては他と比べて慎重にとらえたいが、おおよその傾向として、講義科目は学年が上がっても意欲は高まりにくい、演習や実験・実習は学年が上がるにつれて意欲も高まるといえるだろう。

また、基礎教養科目と、自学科の専門科目（講義）とを比較すると、自学科専門科目（講義）の方が意欲的に取り組まれていることも概ね明らかな傾向といえる。

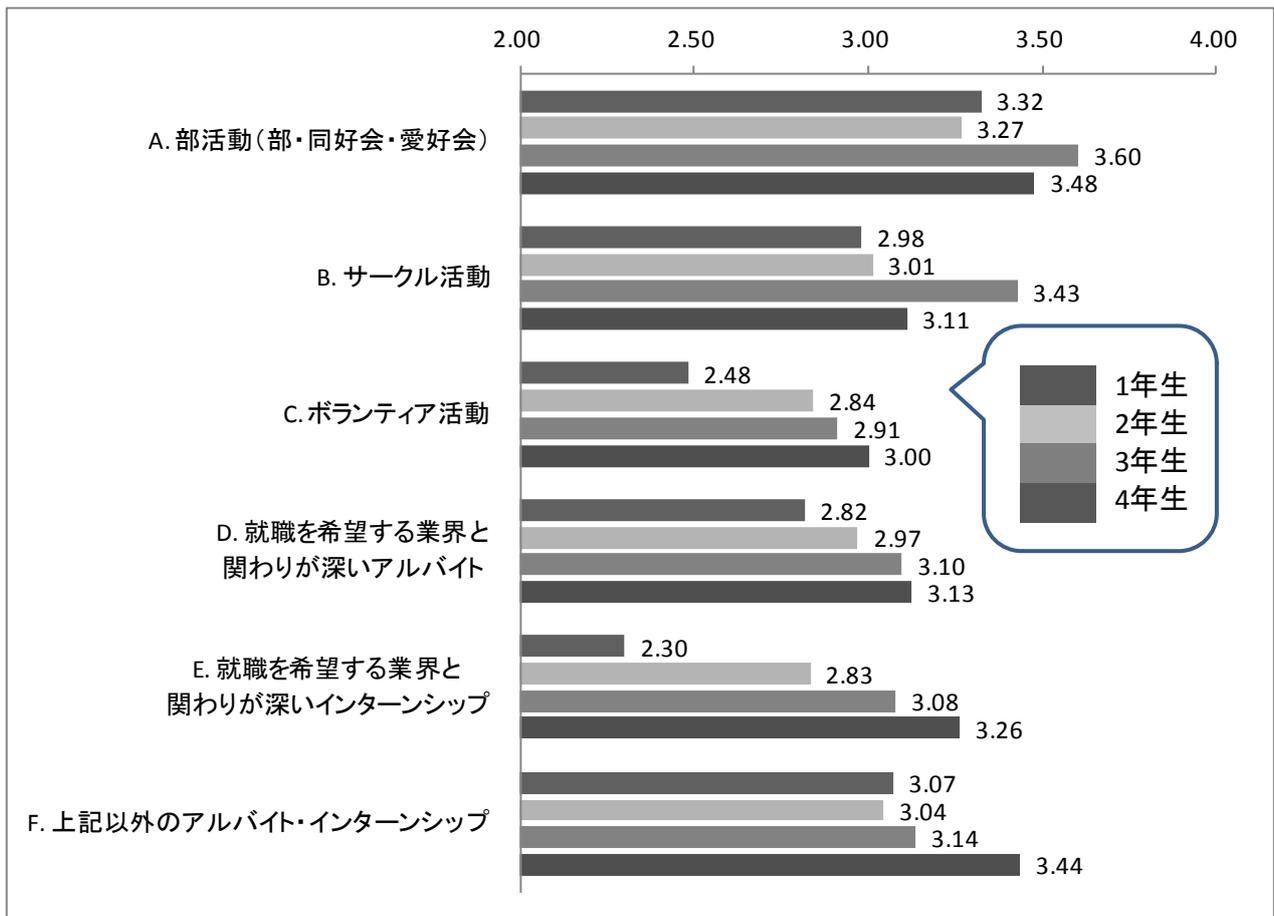
Q05 あなたは、授業期間中、どのような学び方をしてきましたか。

(「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



平均が「ややあてはまる」の 3.00 のラインを超えているのは、レポートへの取り組みや、自分なりに理解できるまで考えたり調べたりする（4年生以外）、自分なりの関心を形成する、の項目であった。授業で必要となる課題への取り組みを熱心に行いながら、自分なりの理解、関心を育てていく様子が見え、暗記で試験を乗り切るようなことは特に3・4年生では少なくなる傾向にある。4年生になると講義科目がほとんどなくなり（Q02に前述）、暗記では対処できないことも要因として想像されるが、学術的な論文・書籍、新聞などの項目も3・4年生で高まっていることを勘案すると、自分なりの関心をもとに学習していく際の情報源が多少なりとも広がっていることが想像される。

Q06 あなたは、授業期間中、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。
 (「経験しなかった」を0とし、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」
 (1)の5件法)



各項目について経験のあった人数

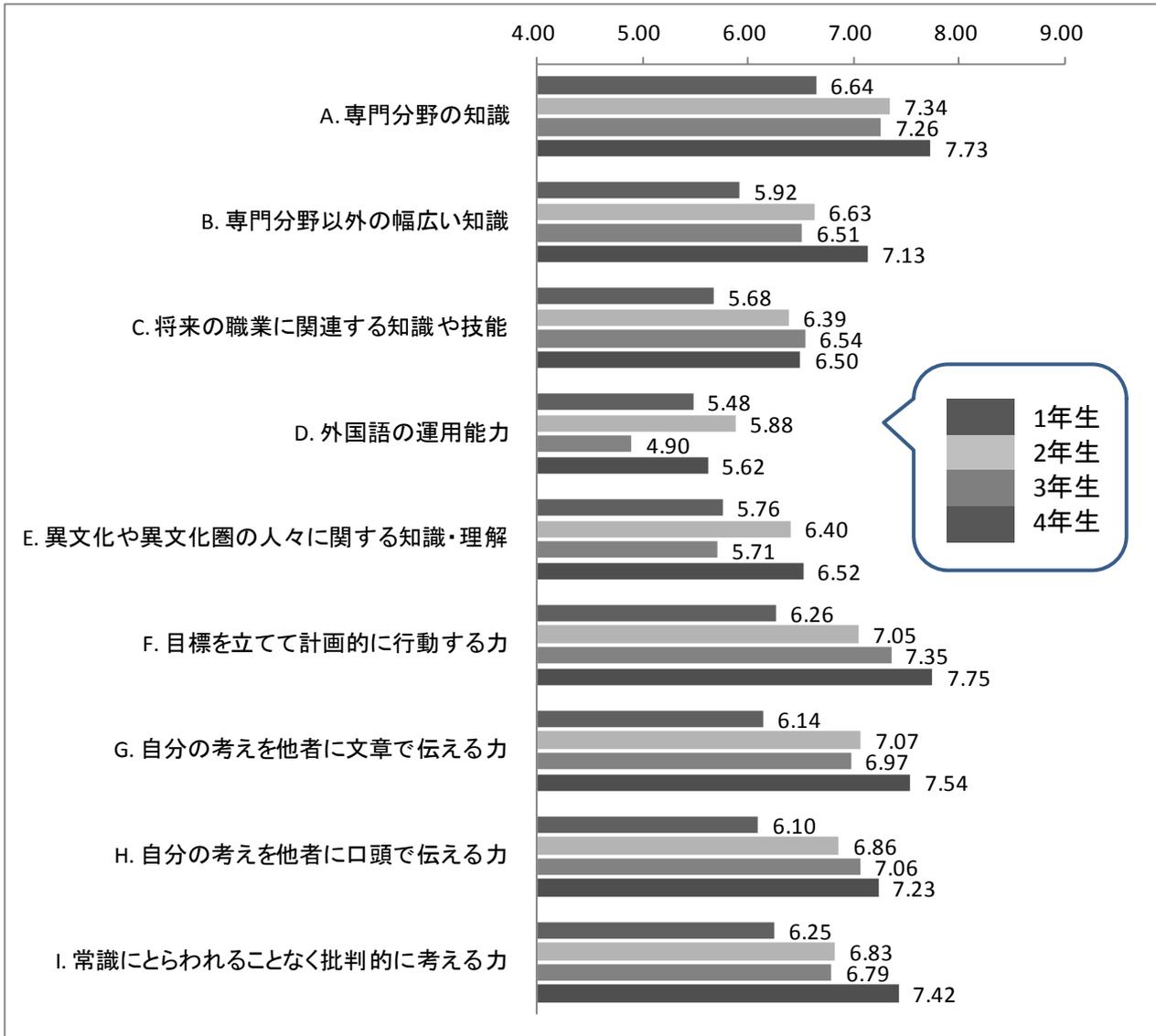
	1年生	2年生	3年生	4年生
A. 部活動(部・同好会・愛好会)	238	90	58	23
B. サークル活動	269	87	42	18
C. ボランティア活動	116	38	23	9
D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	170	69	41	16
E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	63	36	63	19
F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	337	136	81	39

部活動やサークル活動への取り組み意欲は、3年生が最も高く、4年生になると落ち着く傾向にある。その他、ボランティアやアルバイト・インターンシップは、総じて学年が上がるにつれて意欲も高まり、学生の意識が卒業後の社会に向いていく様子がうかがえる。

Q06 現時点で、あなたが以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができましたか。(全18項目)

(「しっかり身についた」(10)～全く身につかなかった(1)の10件法)

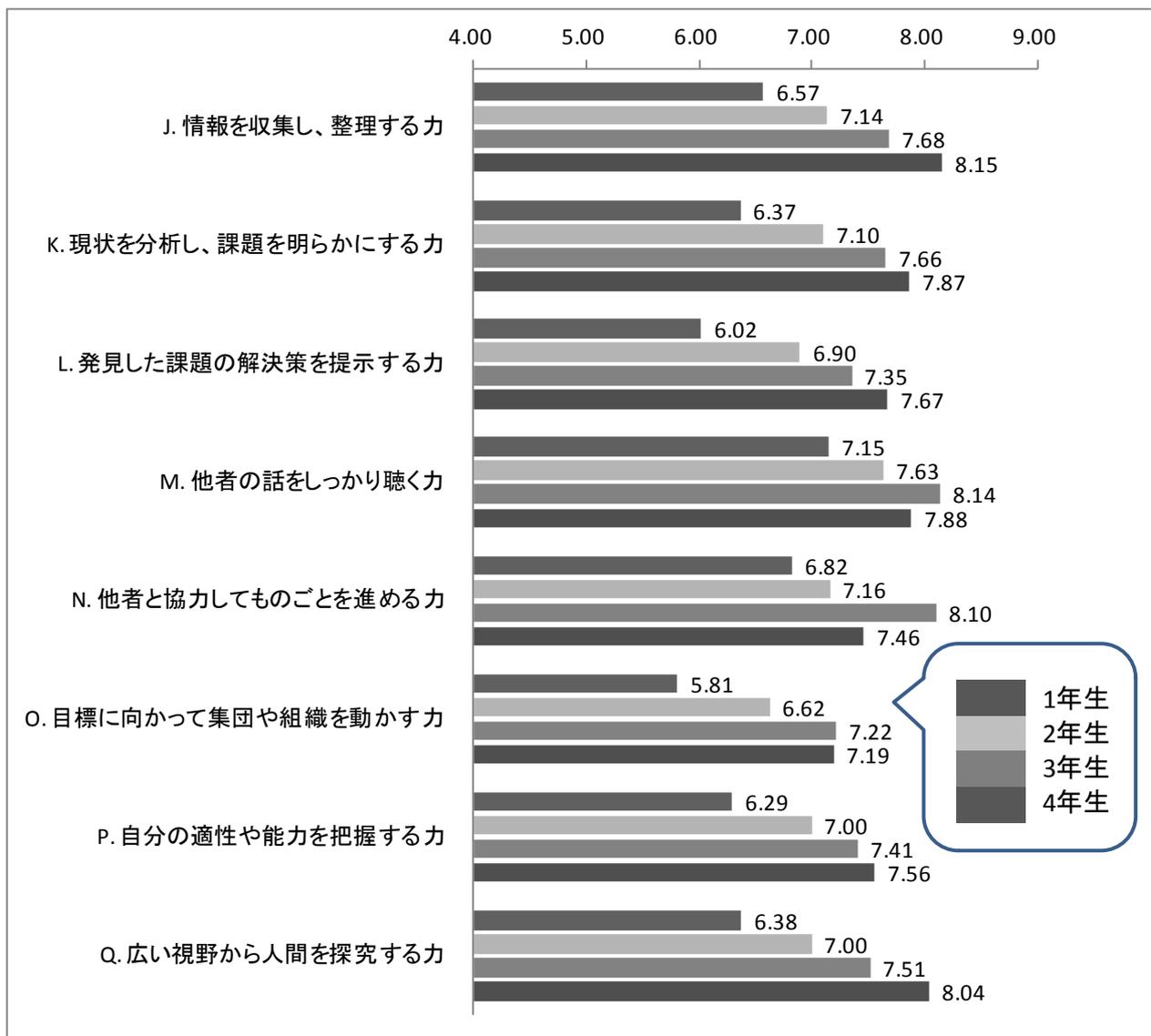
前半9項目



Q06は10段階で聞いているため、6以上がポジティブな回答であるといえる。多くの項目(D・E以外)で、3・4年生になるにつれ、修得の実感が高まってきていることがうかがえる。G・Hは、大学生活では特に演習科目、実験・実習科目で必要とされる力であると思われ、この項目が4年生になるに従って高まることは、大学における学習の結果といえそうである。

全ての学年で平均が6を超えないのは「D.外国語の運用能力」のみであった。また、比較的平均が低く回答傾向がDに似ているものとして、「E.異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解」が挙げられる。この2項目が連動していることは容易に想定され、今後強化する必要のある分野であるといえるだろう。

後半 9 項目



M～Oの3項目以外は、学年が上がるにつれて修得実感も高まっている。M～Oの3項目は、他者との関係性や組織で動く力であるが、4年生になるとサークル活動などを引退したり、卒論・卒研に集中するために、自分ひとりで独自に追究していく学習の時間が相対的に多くなることが想定され、このことによって3年生までよりも値が下がる可能性は考えられる。特に、M・Nの2項目は、3年生では平均が8を超えており、他者を受け入れ、他者と協力する能力は、演習や実験・実習の本格化や、サークル・部活動でも中心的な役割を果たすであろう3年生のときに最も修得実感が得やすいものと考えられる。

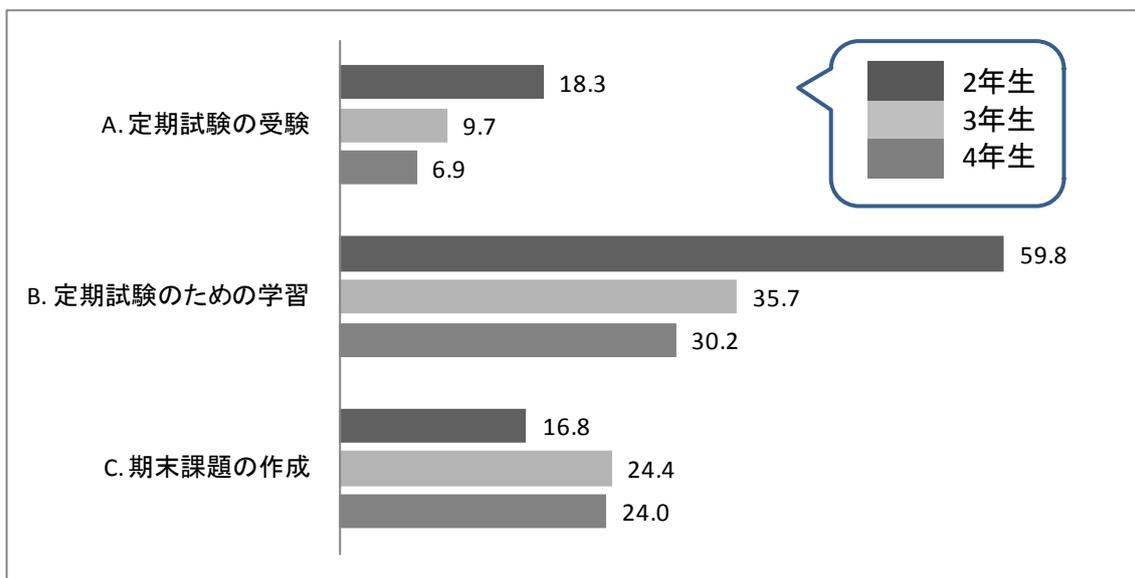
全項目を通じて、最終学年である4年生において平均で8を超えた項目は、「J.情報を収集し、整理する力」、「Q.広い視野から人間を探究する力」であった。これらの項目は、卒業論文・卒業研究の達成に特に関連が深い項目と思われ、この経験による部分が大きいだろう。

2～4年生共通項目

定期試験・休業期間中の学習や課外活動

Q01 あなたは、定期試験や期末課題の作成のために、合計してどのくらいの時間をつかいましたか。

(時間数で回答)

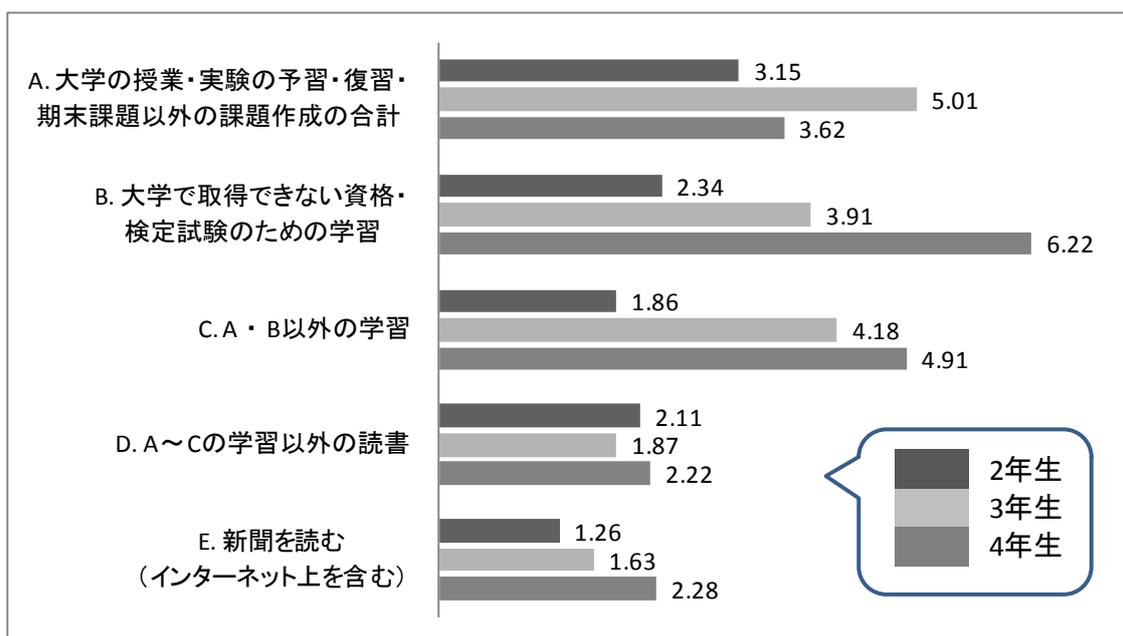


定期試験は、学年が上がるにつれて、受験にかかる時間、定期試験のための学習時間も減っていく傾向にある。期末課題の作成時間は、2年生より3・4年生で多い傾向にあり、履修する授業の形態を反映していると考えられる。演習や実験・実習が多くなる3・4年生では、試験よりも課題の提出が多くなることが現れているといえる。

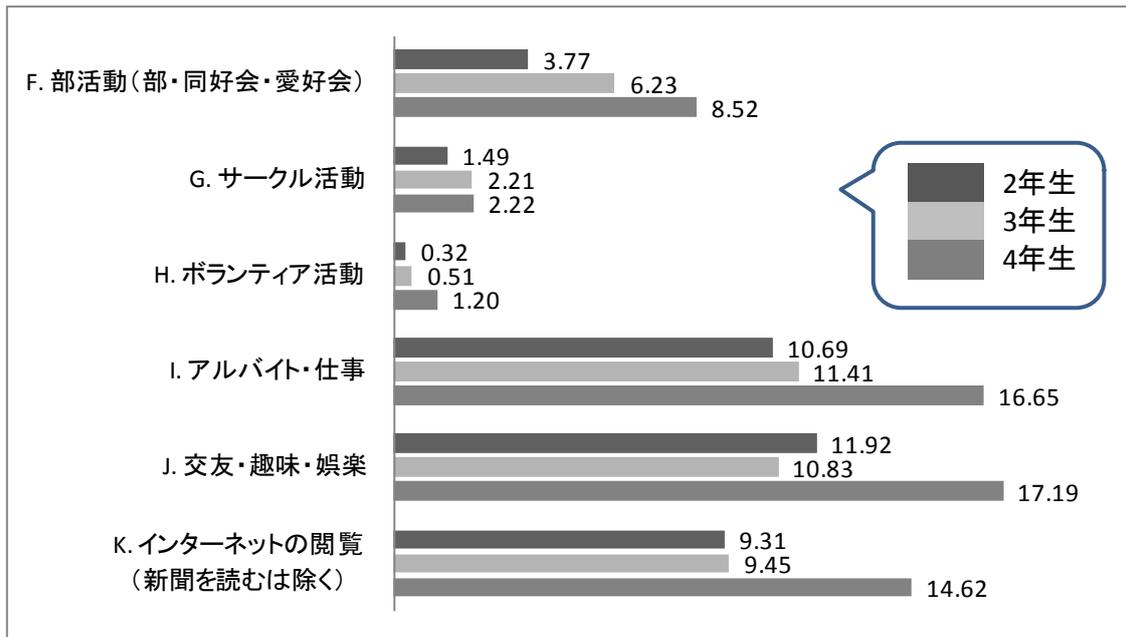
Q02 あなたは、長期休暇中、以下のことがらに1週間あたりどのくらい時間を使いましたか。

(時間数で回答)

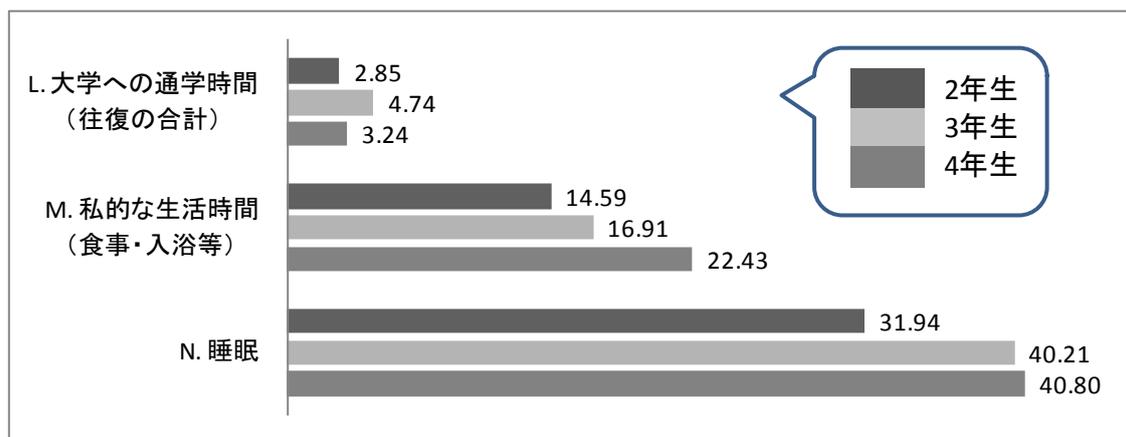
授業関連項目



課外活動やその他の活動関連



生活関連項目



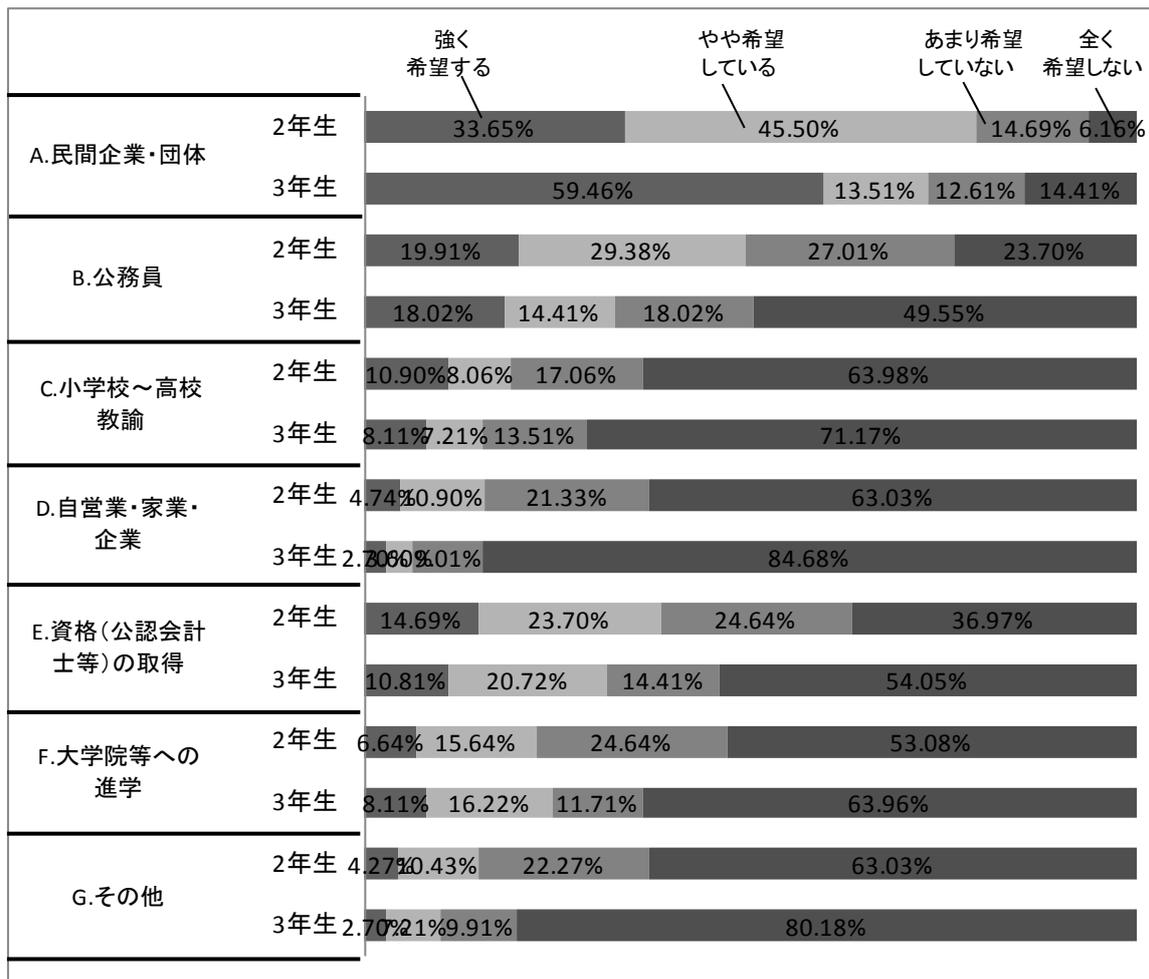
長期休暇の間も、A.の大学の授業等に関する学習はどの学年でも一定程度していることが分かる。特に3年生で多いのは、演習や実験・実習の影響であることが想定される。学年が上がるにつれて、大学では取得できない資格の勉強、その他の学外の学習、新聞を読む時間などが増えるのは、卒業後を見据えた学習にシフトしていることの現れであろう。

課外活動に関しては、ボランティア活動を除き、授業期間中と比較して多くの時間を使っている。ボランティア活動も、4年生に限っては授業期間中よりも多い。また、どの項目も4年生が最も平均時間が多い傾向にあり、部活動やサークル活動、アルバイトに交友・趣味の時間などが顕著に増え、学生最後の休暇を満喫している姿がイメージできる結果となった。

生活関連時間は、授業期間中と比べて大学への通学時間は減り、私的な時間と睡眠時間が増加する。

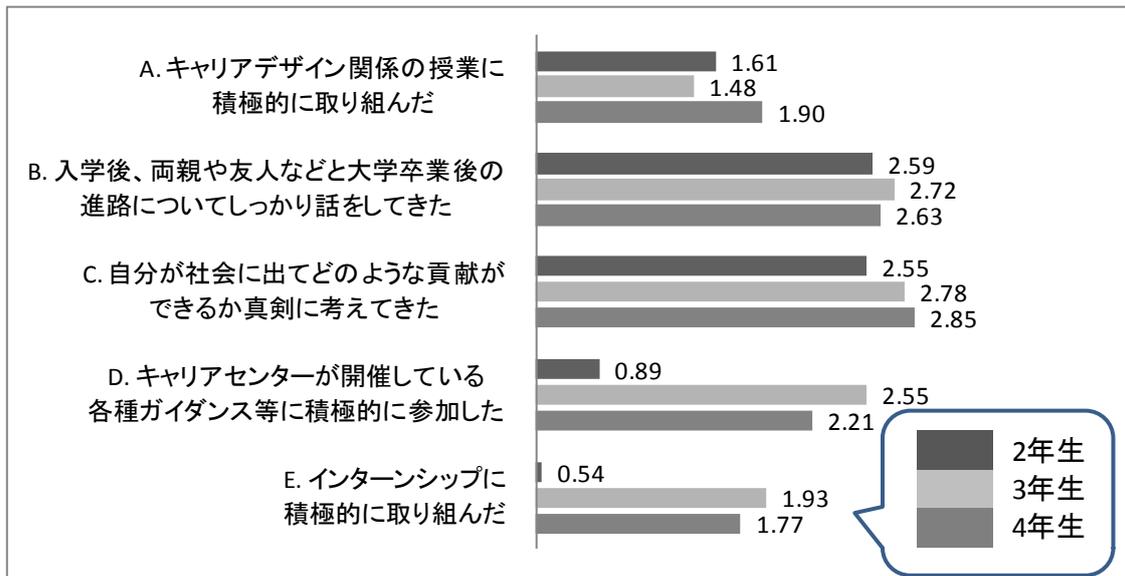
希望進路について

Q03 あなたは、大学卒業後の進路について、現時点でどのような希望をもっていますか。
 (2・3年生のみ) (「強く希望している」(4)～「全く希望していない」(1)の4件法)



民間企業への就職希望が最も高く、順に公務員、資格の取得、大学院、小学校～高校教諭、自営業等となっている。2年生と3年生を比較すると、民間企業への就職を強く希望する学生の割合が3年生で多く、やや希望する学生は2年生の方が多い。同一の人物への調査ではないため単純な比較は難しいものの、2年生から3年生にかけて、進路の希望が焦点化してきていることが考えられる。

Q04 あなたは、将来の進路を考えるにあたり、以下に示すことがらについて、どのくらい取り組んできましたか。(2・3・4年生)
 (「経験しなかった」を0とし、「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の5件法)



キャリアデザイン関係の授業への取り組みや、進路に関するコミュニケーション、社会への貢献を考えることなどは、どの学年でも行っていることがうかがえる。実際にキャリアセンターのガイダンスやインターンシップへ取り組み始めるのは、ほとんどが3年生からである。

Q05 あなたは、大学在学中、留学(海外短期研修や国際ボランティアなどを含みますが、単なる海外旅行は除きます)の経験がありますか。(3・4年生のみ)

		3年生	4年生
3年生	ある	14.3%	85.7%
	ない		
4年生	ある	29.6%	70.4%
	ない		

	3年生	4年生
1週間(7日)未満	0	1
1週間以上2週間(14日)未満	2	0
2週間以上1ヶ月(30日)未満	7	5
1ヶ月以上2ヶ月(60日)未満	5	4
2ヶ月以上1年未満	2	6

	ある	ない	経験あり学生の平均日数
3年生	16名	96名	52.3日
4年生	16名	38名	104.8日

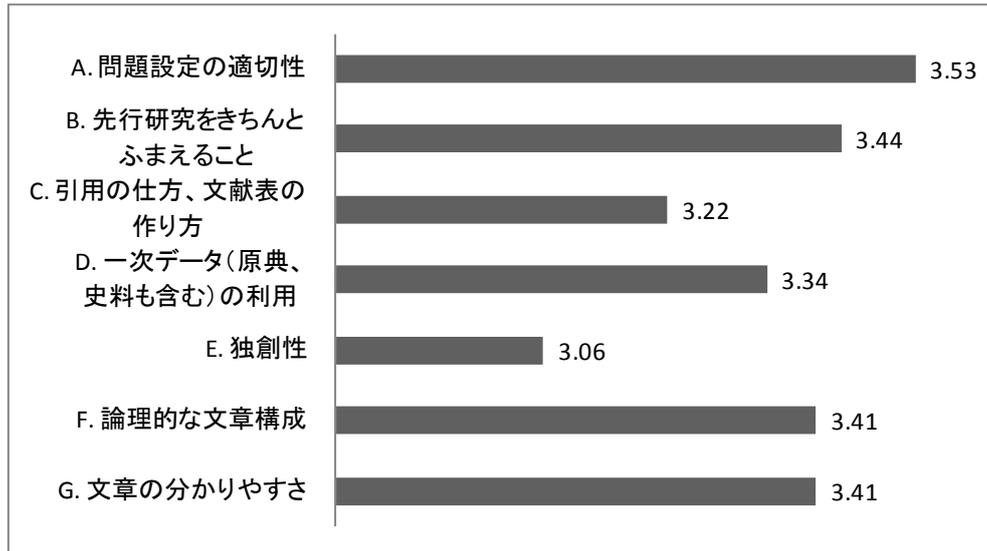
留学経験の人数では、割合・平均日数とも、4年生のほうが多い(「大学在学中」を問う設問のため当然の結果といえる)。3年生は2ヶ月までの経験に偏っているが、4年生では2ヶ月以上の経験者も多くなっていることから、4年生時に比較的長期の留学を経験する学生が多いことがうかがえる。

4年生のみの項目

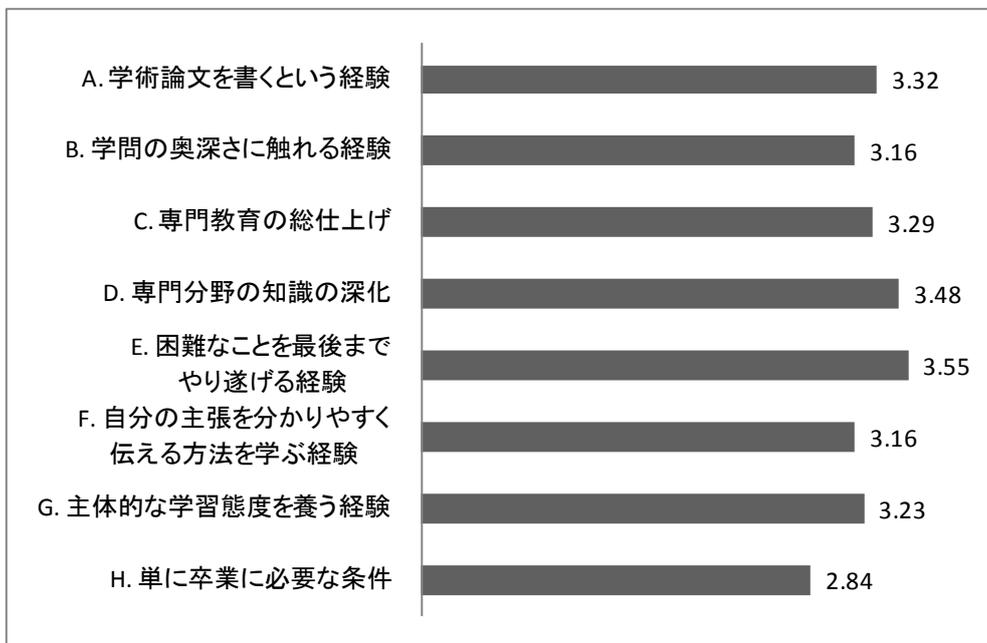
Q01 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を執筆しましたか。



Q02 卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を書くときに、以下の点をどのくらい意識していましたか。（「とても意識した」（4）～「全く意識しなかった」（1）の4件法）



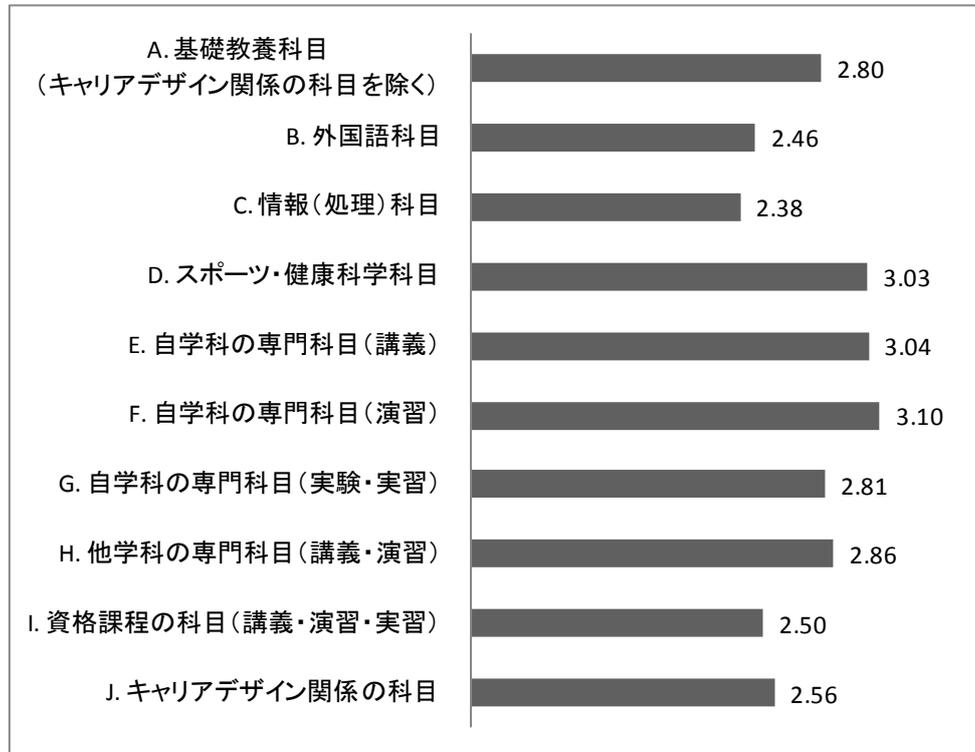
Q03 卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）の執筆にはどのような意義があったと思いますか。（「とてもあてはまる」（4）～「全くあてはまらない」（1）の4件法）



卒論・卒研は回答者の約60%が執筆している。独創性はあまり意識されない傾向が見受けられるものの、問題設定の適切性や先行研究をきちんと踏まえることがより意識されており、やり遂げる経験や専門知識の深化に意義を感じていることから、研究の基本的な流れにしっかりと則った経験を積むことが主な意義となっているといえるだろう。

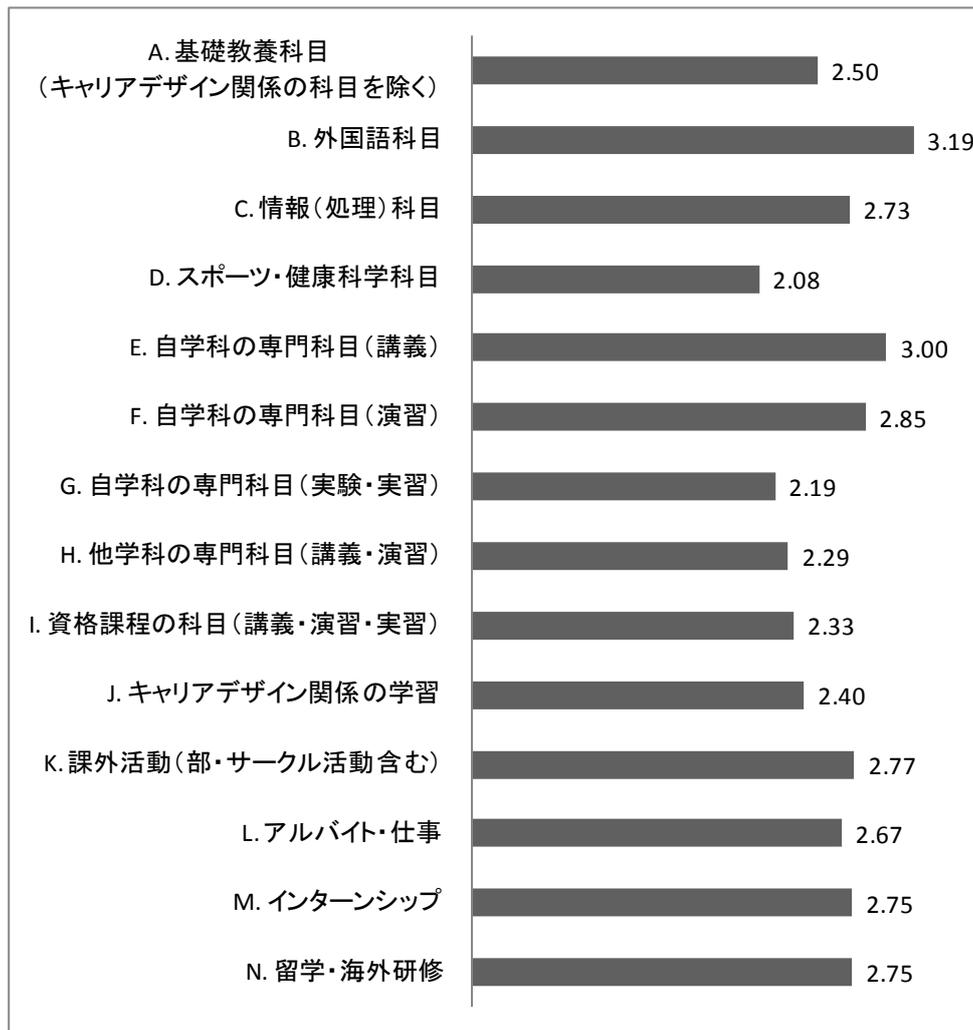
Q04 あなたは、大学の授業の中で、授業を受けることが楽しみだった科目はどの程度ありましたか。

（「経験しなかった」を0とし、「5割以上あった」（4）～「ほとんどなかった」（1）の5件法）



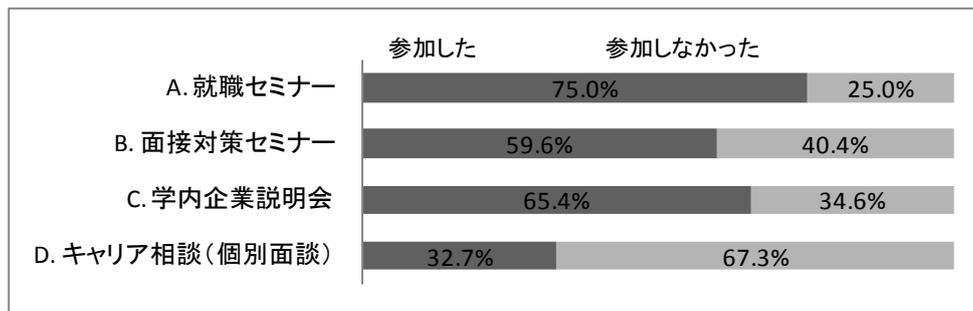
自学科の専門科目は、講義・演習ともに楽しみだった科目の割合が多い傾向にあり、やはり専門科目に対しては期待も大きいことが見て取れる。また、スポーツ・健康科学科目も同様に期待は大きい。反対に、外国語科目、情報処理科目、資格課程の科目、キャリアデザイン関係の科目は、あまり楽しみな科目とはなっていない現状が見受けられる。

Q05 大学時代を振り返って、もっと熱心に学習や経験しておけばよかったと思うことはありますか。（「とてもそう思う」（4）～「全くそう思わない」（1）の4件法）



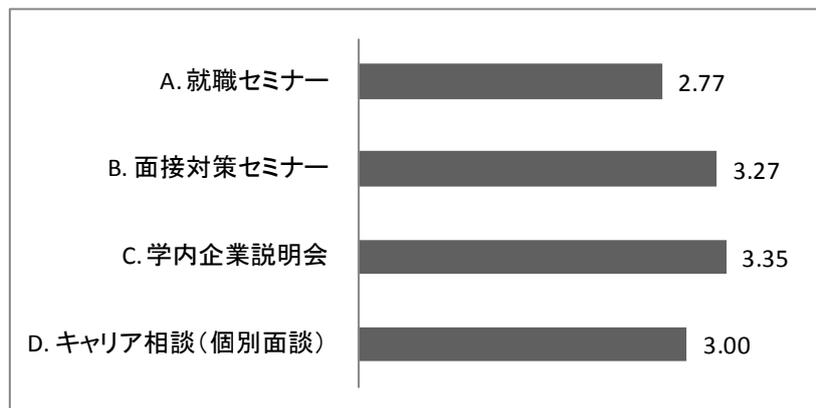
外国語科目の値が最も高く3を超えており、主に1・2年生時に履修した外国語科目について、当時の熱心さが足りていなかったと感じているようである。自学科の専門科目に関しても次に高い傾向があり、このような必ず履修しなくてはならない授業に関して、振り返ると熱心さが足りていなかったと感じる学生が多いことがうかがえる。

Q06 あなたは、大学在学中、キャリアセンターが開催した以下の行事に参加しましたか。



	参加人数
A. 就職セミナー	39
B. 面接対策セミナー	30
C. 学内企業説明会	34
D. キャリア相談(個別面談)	18

Q06 大学在学中、あなたが参加したキャリアセンター開催の行事についてお聞きします。参加した行事は、あなたの卒業後の進路決定にあたり、どのくらい参考になりましたか。
 (「とても参考になった」(4) ~ 「全く参考にならなかった」(1) の4件法)



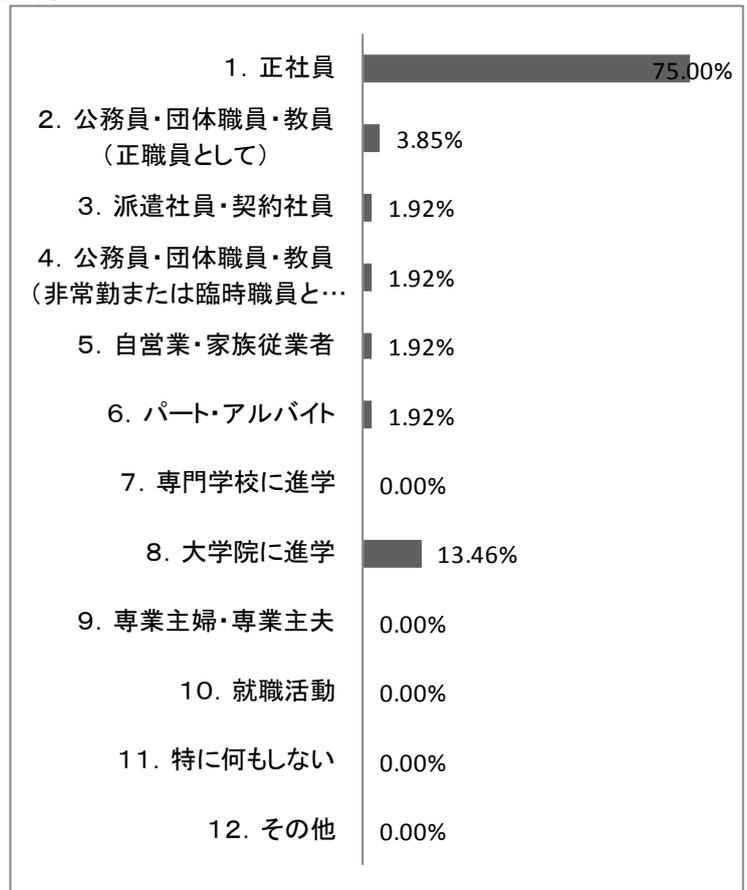
回答者中、キャリア相談(個別面談)は、参加人数は少ないものの、参考になった程度は、参加人数が最も多かった就職セミナーよりも高い結果となった。参考になった程度が最も高いのは学内の企業説明会で、今後参加人数が増加することも考えられるだろう。

Q07 あなたの大学卒業後の進路としてあてはまるものを1つ選んでください。

各項目の人数

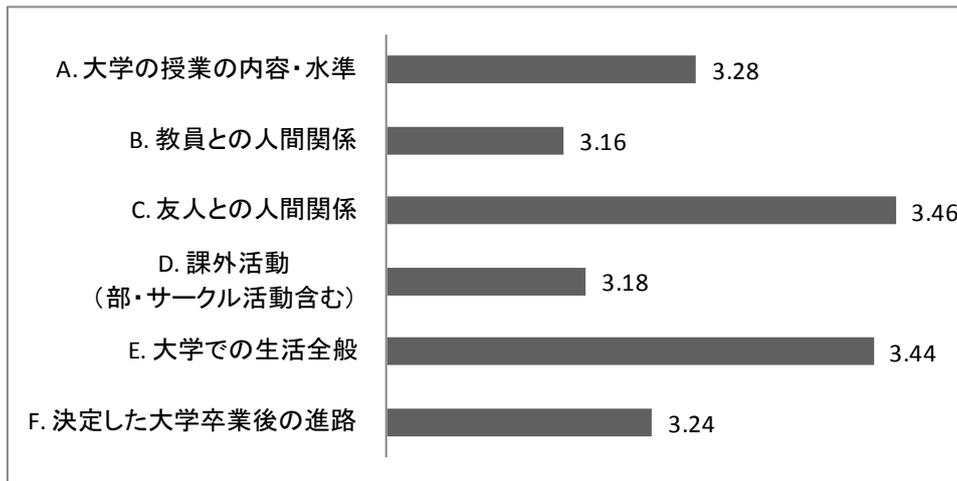
1. 正社員	39
2. 公務員・団体職員・教員 (正職員として)	2
3. 派遣社員・契約社員	1
4. 公務員・団体職員・教員 (非常勤または臨時職員として)	1
5. 自営業・家族従業者	1
6. パート・アルバイト	1
7. 専門学校に進学	0
8. 大学院に進学	7
9. 専業主婦・専業主夫	0
10. 就職活動	0
11. 特に何もしない	0
12. その他	0

割合グラフ



今回の調査に回答した学生の多くは、これから会社員として働く予定であり、大学院へ進学する学生が少し含まれるが、その他はほとんど含まれていないという結果であった。

Q08 あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。
(「とても満足している」(4)～「全く満足していない」(1)の4件法)



大学時代を通じて、友人関係や、大学での生活全般において満足度が高い結果となり、この2項目は関連性があることが考えられる。全ての項目において、回答の平均は3を超えていることから、概ね多くの学生がどの項目についても満足していることがうかがえる。

第2章

学生の意欲の類型と身についたと実感した能力

1. 分析の目的

在学生調査の実施の目的は、学生にとって毎年度の大学生活の振り返りの機会を設けることを主としているが、大学にとっては、教育の内部質保証サイクルを機能させるための議論を可能にするデータを取得する貴重な機会である。これらの目的に従い、本章では前章までの全体集計を前提としながら、質問項目間の関連性を検討することにより、学生の意欲的な取り組み内容と、学習時間、学び方や学習実感などとの間にどのようなつながりがあるかを見出し、学生・大学の双方に資するものとした。

本調査では、様々な授業科目や課外活動等についてどの程度の意欲をもって取り組んでいるかを確認している。大学生活において、どのような内容に意欲的に取り組んでいるかによって、1年間で身についたと感じる能力等が異なることは、想像に難くない。本章では学生の意欲的な取り組みの類型が、自身の身についた能力実感に影響を与えているという仮定にたって、学生の類型と身についた能力実感の関係を検証する。

2. 1年生の分析

2-1. 分析の方法

本章では、まず1年生の回答について、データを整理した上で、授業期間中の意欲的な取り組みに関する回答をもとに1年生を類型化し、その類型をもって学習や課外活動に費やした時間や学び方、学修実感などの違いを分析した。(詳細は後述「分析方法の詳細」を参照)

2-2. 類型化の結果

類型化の結果として、4つのクラスタ(群)に分けることによって解釈等が可能で特徴が見られると判断した。以下に、各クラスタの意欲的な取り組みに関する特徴を記載し、平均値をグラフ化した。各項目の平均値と標準偏差(表1)、授業や活動の経験ありの割合(表2)、各クラスタの学部別人数構成(表3)、各項目のクラスタ間の差をみた分散分析の結果(表4)も併せて示す。

【クラスタ1：課外活動は部活動がメインの学生】 図1-ブルー

全員が部活動に参加し、かつ部活動への意欲が高く、アルバイト(特に就職を希望する業界には関連しないもの。経験率は75.8%)も行っている。授業関連では際立った特徴はなく平均的で、その他の学習活動はあまりしていないことがうかがえる。どの学部からも20~30%の人数が入った。どの学部にも一定数存在する学生である。

【クラスタ 2：課外活動はサークルで、アルバイトも同時に行う学生】 図1-オレンジ

サークル活動に意欲的でアルバイトも行っており、この2つの経験率や取り組み意欲の平均値はほぼ同じ値であった。部活動に所属している学生はほとんど含まれない。授業関連でも際立った特徴はなく平均的で、その他の学習活動もあまりしていないことがうかがえる。法学部の48%、経済学部の51%、国際社会科学部の58%が含まれ、これらの学部では主流のタイプといえる。

【クラスタ 3：授業関連・自主学習がメインで、課外活動はあまりしない学生】 図1-グレー

課外活動への取り組みはまばらであるが、自学科において必要な授業関連の学習や、大学での授業外の自主学習に特に意欲的に取り組んでいる。文学部の46%、理学部の47%の人数が含まれ、この2つの学部では主流のタイプといえる。

【クラスタ 4：さまざまな分野に意欲的な学生】 図1-イエロー

就職を希望する業界に関係のあるインターンシップ以外の経験率がすべて60%以上であり、様々な活動を行っている。各項目への取り組み意欲の値も高い。どの学部においても15%未満の人数であり、少数派のタイプである。

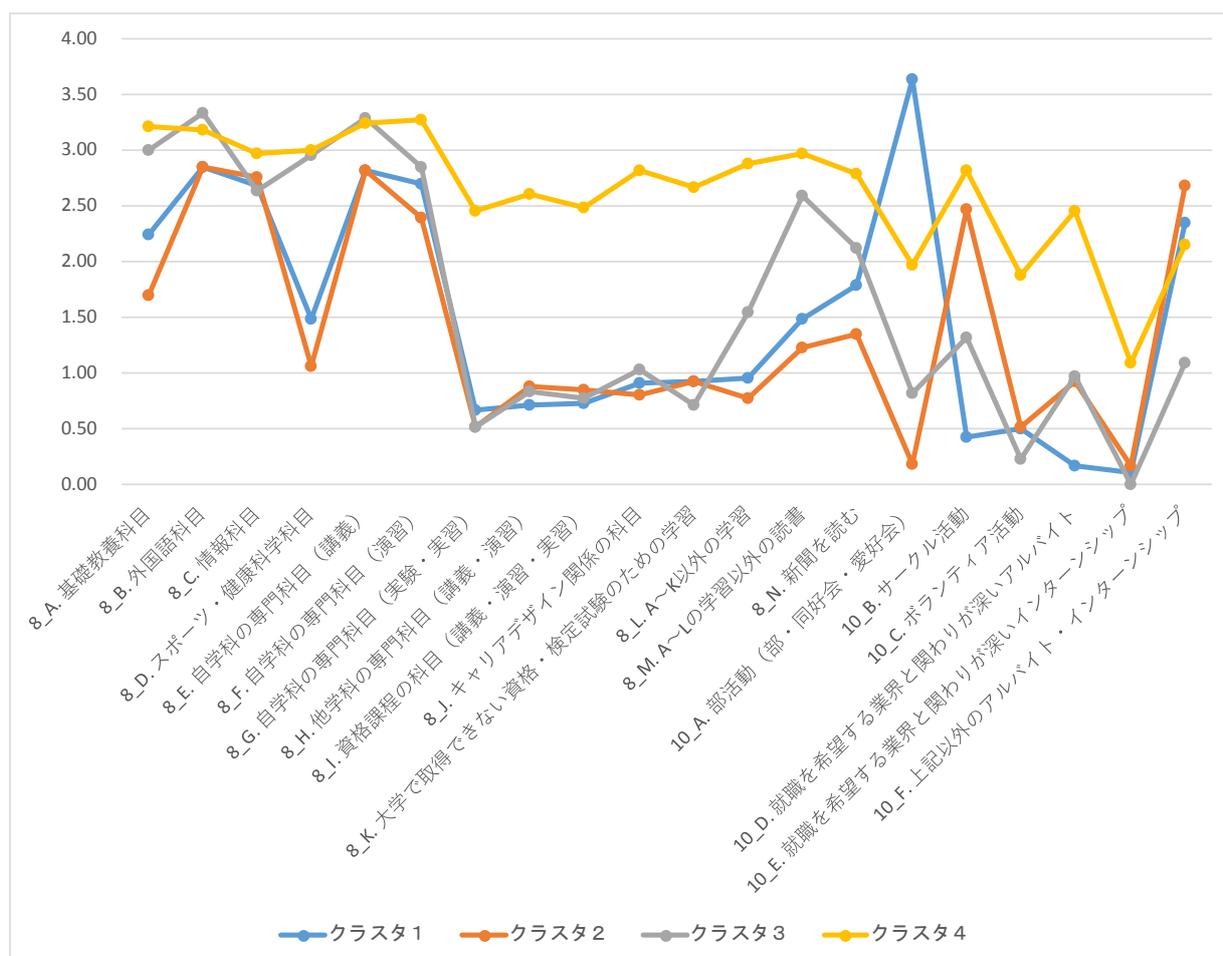


図1 クラスタ別の各項目の取り組み意欲 (Q08 と Q10) の平均

表1 各クラスターの意欲的な取り組み項目の平均値

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4
8_A. 基礎教養科目	2.24 (1.19)	1.70 (1.34)	3.00 (0.75)	3.21 (0.65)
8_B. 外国語科目	2.85 (1.03)	2.85 (1.07)	3.34 (0.70)	3.18 (0.92)
8_C. 情報科目	2.68 (0.84)	2.76 (0.97)	2.65 (0.95)	2.97 (0.81)
8_D. スポーツ・健康科学科目	1.48 (1.62)	1.07 (1.46)	2.96 (1.31)	3.00 (1.20)
8_E. 自学科の専門科目(講義)	2.83 (1.06)	2.82 (0.91)	3.29 (0.74)	3.24 (0.66)
8_F. 自学科の専門科目(演習)	2.70 (1.36)	2.39 (1.41)	2.85 (1.32)	3.27 (0.63)
8_G. 自学科の専門科目(実験・実習)	0.67 (1.29)	0.51 (1.20)	0.52 (1.26)	2.45 (1.35)
8_H. 他学科の専門科目(講義・演習)	0.71 (1.23)	0.89 (1.34)	0.84 (1.31)	2.61 (1.22)
8_I. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	0.74 (1.24)	0.86 (1.36)	0.77 (1.35)	2.48 (1.39)
8_J. キャリアデザイン関係の科目	0.92 (1.51)	0.81 (1.29)	1.04 (1.59)	2.82 (1.21)
8_K. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	0.93 (1.47)	0.93 (1.40)	0.72 (1.29)	2.67 (1.27)
8_L. A~K以外の学習	0.95 (1.24)	0.78 (1.08)	1.56 (1.52)	2.88 (0.86)
8_M. A~Lの学習以外の読書	1.49 (1.36)	1.22 (1.38)	2.59 (1.24)	2.97 (0.95)
8_N. 新聞を読む	1.79 (1.22)	1.36 (1.31)	2.13 (1.41)	2.79 (0.89)
10_A. 部活動(部・同好会・愛好会)	3.64 (0.59)	0.19 (0.65)	0.82 (1.41)	1.97 (1.76)
10_B. サークル活動	0.43 (1.11)	2.48 (1.45)	1.32 (1.52)	2.82 (1.45)
10_C. ボランティア活動	0.51 (1.15)	0.52 (1.08)	0.24 (0.79)	1.88 (1.65)
10_D. 就職を希望する業界と関わりが 深いアルバイト	0.17 (0.61)	0.93 (1.46)	0.97 (1.55)	2.45 (1.54)
10_E. 就職を希望する業界と関わりが 深いインターンシップ	0.11 (0.58)	0.18 (0.63)	0.01 (0.11)	1.09 (1.49)
10_F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	2.34 (1.49)	2.68 (1.37)	1.09 (1.50)	2.15 (1.46)

※()内は標準偏差

表2 クラスタ別の各科目・活動（Q8とQ10）の経験ありの人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4
8_A. 基礎教養科目	83.9%	66.4%	100.0%	100.0%
8_B. 外国語科目	94.3%	94.4%	100.0%	97.0%
8_C. 情報科目	98.9%	98.1%	96.2%	100.0%
8_D. スポーツ・健康科学科目	50.6%	38.3%	87.3%	90.9%
8_E. 自学科の専門科目（講義）	94.3%	96.3%	98.7%	100.0%
8_F. 自学科の専門科目（演習）	85.1%	78.5%	86.1%	100.0%
8_G. 自学科の専門科目（実験・実習）	24.1%	16.8%	15.2%	84.8%
8_H. 他学科の専門科目（講義・演習）	28.7%	32.7%	30.4%	87.9%
8_I. 資格課程の科目 （講義・演習・実習）	29.9%	31.8%	26.6%	81.8%
8_J. キャリアデザイン関係の科目	31.0%	31.8%	31.6%	90.9%
8_K. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	32.2%	35.5%	26.6%	87.9%
8_L. A～K以外の学習	42.5%	39.3%	57.0%	97.0%
8_M. A～Lの学習以外の読書	63.2%	51.4%	87.3%	97.0%
8_N. 新聞を読む	78.2%	60.7%	77.2%	100.0%
10_A. 部活動（部・同好会・愛好会）	100.0%	8.4%	27.8%	63.6%
10_B. サークル活動	13.8%	83.2%	48.1%	84.8%
10_C. ボランティア活動	17.2%	21.5%	10.1%	63.6%
10_D. 就職を希望する業界と関わりが 深いアルバイト	8.0%	31.8%	31.6%	78.8%
10_E. 就職を希望する業界と関わりが 深いインターンシップ	4.6%	8.4%	1.3%	42.4%
10_F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	75.9%	84.1%	38.0%	75.8%

表3 各クラスターの学部別人数（カッコ内は学部内の人数割合）

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	合計
法学部	21 (29.6%)	34 (47.9%)	10 (14.1%)	6 (8.5%)	71 (100.0%)
経済学部	24 (30.4%)	40 (50.6%)	4 (5.1%)	11 (13.9%)	79 (100.0%)
文学部	28 (27.2%)	17 (16.5%)	47 (45.6%)	11 (10.7%)	103 (100.0%)
理学部	10 (29.4%)	5 (14.7%)	16 (47.1%)	3 (8.8%)	34 (100.0%)
国際社会科学部	4 (21.1%)	11 (57.9%)	2 (10.5%)	2 (10.5%)	19 (100.0%)
合計	87 (28.4%)	107 (35.0%)	79 (25.8%)	33 (10.8%)	306 (100.0%)

表4 意欲的な取り組みに関する一要因分散分析の結果

項目名	分散分析の結果(※1)	多重比較(※2)
8_A. 基礎教養科目	p<.01	C4>C3>>C1>>C2
8_B. 外国語科目	p<.01	C3>>C1>C2 (C3>C4)
8_C. 情報科目	p>.10	—
8_D. スポーツ・健康科学科目	p<.01	C4>C3>>C1>C2
8_E. 自学科の専門科目(講義)	p<.01	C3>>C1>C2 (C3>C4>C1、C4>>C2)
8_F. 自学科の専門科目(演習)	p<.01	C4>>C1、C4>>C2 (C4>C3>C1>C2)
8_G. 自学科の専門科目 (実験・実習)	p<.01	C4>>C1>C3>C2
8_H. 他学科の専門科目 (講義・演習)	p<.01	C4>>C2>C3>C1
8_I. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	p<.01	C4>>C2>C3>C1
8_J. キャリアデザイン関係の 科目	p<.01	C4>>C3>C1>C2
8_K. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	p<.01	C4>>C2>C1>C3
8_L. A~K以外の学習	p<.01	C4>>C3>>C1>C2
8_M. A~Lの学習以外の読書	p<.01	C4>C3>>C1>C2
8_N. 新聞(インターネット上 での紙面を含む)を読む	p<.01	C4>>C3>>C1>C2 (C3>>C2)
10_A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	p<.01	C1>>C4>>C3>>C2
10_B. サークル活動	p<.01	C4>C2>>C3>>C1
10_C. ボランティア活動	p<.01	C4>>C2>C1>C3
10_D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	p<.01	C4>>C3>C2>>C1
10_E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	p<.01	C4>>C2>C1>C3 (C2>>C3)
10_F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	p<.01	C2>C1>C4>>C3

※1 Welchの補正による

※2 Games-Howellの方法による(">>"は5%水準で有意な差、">"は偶然の差を示す)

2-3. 学生の類型と学習や課外活動、その他の活動へ使った時間の関係

「Q06 あなたは、授業期間中（2017年4月～2018年1月）、以下の授業に1週間あたり平均でどのくらいの時間出席していましたか。」として計10項目の授業科目で1週間あたりの出席時間を、「Q07 あなたは、授業期間中（2017年4月～2018年1月）、以下のことがらに1週間あたり平均でどのくらいの時間を使いましたか。」として、計23項目で1週間あたりの活動時間数を尋ねている。ここでは、Q06、Q07の計33項目を、以下のように集約した。

【集約方法】

授業への出席時間合計（Q06の全合計）

授業の時間外学習時間合計（Q07のA～Jの合計）

自主学習時間（Q07のK～Nの合計）

部活・サークル・ボランティア（Q07のO～Qの合計）

アルバイト（Q07のR）

交友・趣味・娯楽（Q07のS・Tの合計）

通学・生活・睡眠（Q07のU～Wの合計）

2-2で類型化したクラスタ別に、集約した時間の平均値と標準偏差を算出した（表5）。

表5 クラスタ別の各活動へ使った時間

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	全体
授業への出席時間合計 （Q06の全合計）	19.30 (6.40)	18.04 (5.91)	21.02 (5.45)	19.86 (7.98)	19.36 (6.27)
授業の時間外学習時間合計 （Q07のA～Jの合計）	7.16 (6.46)	7.69 (6.01)	10.53 (8.27)	9.09 (6.27)	8.42 (6.91)
自主学習時間 （Q07のK～Nの合計）	3.04 (4.46)	2.89 (4.87)	5.03 (5.21)	6.55 (9.94)	3.88 (5.73)
部活・サークル・ボランティア （Q07のO～Qの合計）	11.36 (10.60)	3.55 (4.32)	2.51 (4.64)	8.41 (10.21)	6.02 (8.29)
アルバイト（Q07のR）	7.96 (6.34)	14.20 (8.07)	6.11 (6.91)	9.45 (7.08)	9.83 (7.92)
交友・趣味・娯楽 （Q07のS・Tの合計）	16.63 (13.22)	20.18 (12.86)	18.72 (11.19)	12.85 (10.98)	18.00 (12.52)
通学・生活・睡眠 （Q07のU～Wの合計）	69.97 (13.53)	69.73 (16.06)	72.07 (13.84)	65.35 (17.40)	69.93 (15.02)

単位：時間（）内は標準偏差

「自主学習時間」「部活・サークル・ボランティア」「アルバイト」に関しては、クラス内でも開きが大きく、平均値よりも標準偏差の方が大きい場合が見受けられる。これは、同じクラス内の学生でも、それぞれの活動に使っていた時間がばらばらであることを示している。従って、ここでは標準偏差の値にも留意しながら各クラスタの特徴を記述したい。

クラスタ1は、部活・サークル・ボランティアに特に多くの時間を使っていたと見受けられる。ただ、どのクラスタでも標準偏差が大きく、クラスタ内でもばらつきがあるものとみられる。クラスタ1は、部活動への意欲が高く参加率も100%であったことを考慮に入れると、やはりこのクラスタの学生は部活動に最も力を入れていると考えるのが妥当だと思われる。

クラスタ2で特徴的な点は、アルバイトに使う時間が長いことである。このクラスタは、取り組み意欲としてはサークル活動とアルバイトが同程度に高かったが、実際に使う時間が多いのはアルバイトであった。また、授業への出席時間が全体平均と比較して1時間以上少ないことは留意すべき内容かもしれない。

クラスタ3は、授業への出席・授業の時間外学習の時間が長く、部活動などの課外活動、アルバイトは比較して短い。また、自主学習時間もクラスタ4よりは平均で短い、クラスタ1及びクラスタ2よりは2時間以上長い。クラスタ3は、意欲的な取り組み項目の検討では、大学内外での学習に意欲的だが課外活動等へはさほど意欲のわからない学生であることが見受けられ、このことは使った時間にも反映されていると思われる。

クラスタ4は、時間を尋ねる項目のどれでも標準偏差が大きい、平均値も大きい。クラスタ4は、様々な活動への意欲や経験率が高いクラスタであったが、このクラスタでも時間の使い方はばらばらであることが見受けられる。平均値は比較的どの項目も高いものの、現実には使える時間が限られていることも考慮すると、クラスタ内のすべての学生がすべての活動を行っていたというよりも、項目ごとに0時間に近い学生とかなり多くの時間を使っている学生が混在していると考えるのがよいだろう。

2-4. 学生の類型と大学入学後の学び方の関係

Q09 では、「あなたは、大学入学後、どのような学び方をしてきましたか。」として、計7項目でどのような学び方をしているかを尋ねている。ここでは、クラスタによって学び方の違いがあるかを検討するために、Q09 の各項目を従属変数とする分散分析を行った。

表6にはクラスタごとの各項目の平均値と標準偏差、表7にはWelchの補正による分散分析結果と Games-Howell の方法による多重比較の結果を示している。(有意水準は5%として、5%未満であれば多重比較を行った。表には1%を下回るF比であったものにはその旨記載している。)

表6 各クラスタの学び方の平均値と標準偏差

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4
9-A. 学術的な論文・書籍を積極的に 読んだ	2.02 (0.88)	2.09 (0.83)	2.49 (1.00)	2.94 (0.93)
9-B. 文学作品を積極的に読んだ	1.97 (0.87)	1.94 (0.81)	2.54 (1.00)	2.79 (0.96)
9-C. 新聞を積極的に読んだ	1.98 (0.95)	1.96 (0.87)	2.01 (0.87)	2.52 (0.91)
9-D. 授業で課されたレポートなどは しっかり準備して書いた	3.29 (0.78)	3.33 (0.79)	3.54 (0.57)	3.48 (0.62)
9-E. 暗記によって試験を乗り切る ような学習が多くを占めた	2.72 (0.77)	2.79 (0.77)	2.57 (0.80)	3.06 (0.83)
9-F. 授業内容が自分なりに理解できる まで考えたり調べたりした	2.89 (0.81)	3.05 (0.71)	3.22 (0.69)	3.06 (0.75)
9-G. 授業をきっかけにして自分なりの 関心を形成していった	2.93 (0.76)	2.83 (0.75)	3.20 (0.69)	3.27 (0.72)

() 内は標準偏差

表7 学び方の分散分析結果

項目名	分散分析の結果(※1)	多重比較(※2)
9-A. 学術的な論文・書籍を積極的に読んだ	p<.01	C4>C3»C2>C1
9-B. 文学作品を積極的に読んだ	p<.01	C4>C3»C1>C2
9-C. 新聞を積極的に読んだ	p<.05	C4»C3>C1>C2
9-D. 授業で課されたレポートなどはしっかり準備して書いた	p>.05	—
9-E. 暗記によって試験を乗り切るような学習が多くを占めた	p<.05	C4>C2>C1>C3 (C4»C3)
9-F. 授業内容が自分なりに理解できるまで考えたり調べたりした	p>.05	—
9-G. 授業をきっかけにして自分なりの関心を形成していった	p<.01	C4>C3>C1>C2 (C4,C3»C2)

※1 Welchの補正による

※2 Games-Howellの方法による(”»”は5%水準で有意な差、”>”は偶然の差を示す)

これらの結果をみると、Q09-DやQ09-Fでは有意な差が認められず、平均値が3前後の値であることがわかる。従って、どのクラスタもレポートをしっかり準備して書いたり、授業内容が自分なりに理解できるまで考えたり調べたりしたと回答したといえるだろう。

学術的な論文や書籍(Q09-A)、文学作品(Q09-B)に関しては、クラスタ4及びクラスタ3の学生は、残りの2つのクラスタと比較して読んでいると回答しているといえる。また、クラスタ4は、新聞をよく読んでいるといえる。(意欲的な取り組み項目の検討では、クラスタ4は「新聞を読む」の経験率100%であった。)

Q09-Eは暗記によって試験を乗り切るような学習であったかどうかであるが、クラスタ4、2、1、3の順に頼らなくなり、クラスタ3の学生は、暗記への依存度が比較的低いという結果であった。

Q09-Gのような、授業を受けての自分なりの関心形成は、クラスタ4やクラスタ3ではよく行われていた傾向があるが、特にクラスタ2では比較的行われなかったようである。

さまざまな分野に意欲的な学生のクラスタ4は、学び方に関しても概ね他のクラスタより値が高く、暗記を含めて多様な学び方をしていると回答していることが見受けられる。クラスタ3は、授業に関する学習・自主学習以外の課外活動にはあまり参加していない学生で、学び方についてはクラスタ4とほぼ同様に多様な学び方をしているとの回答であったが、暗記学習に関してはあまり利用していないことがうかがえる。

2-5. 学生の類型と1年間で身につけた知識や能力の関係

Q11では、「あなたは、大学入学時点から現在までに、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができましたか。」として、計17項目で学修した実感を尋ねている。

これらの17項目について、項目間の相関係数を確認したところ、全ての項目間で有意な相関が得られ、相関の強さは中程度(0.4~0.7)のものが多く、一部強い相関のものも見受けられた。このことを考慮に入れて、学生が1年間で身につけたと考えている内容について、これらの回答をまとめるために因子分析(最尤法・プロマックス回転)を行った。結果、表8のように2因子が抽出され、それぞれ「課題解決・協調能力」(因子1)、「知識と伝達能力」(因子2)と命名した。

表8 1年間で身につけた知識や能力(Q11)の因子分析結果

項目(全体の $\alpha = .94$)	因子1	因子2
Q11_K. 現状を分析し、課題を明らかにする力	0.931	-0.092
Q11_L. 発見した課題の解決策を提示する力	0.880	0.007
Q11_M. 他者の話をしっかり聴く力	0.802	-0.075
Q11_P. 自分の適性や能力を把握する力	0.797	-0.044
Q11_Q. 広い視野から人間を探究する力	0.673	0.126
Q11_N. 他者と協力してものごとを進める力	0.673	-0.087
Q11_F. 目標を立てて計画的に行動する力	0.589	0.225
Q11_J. 情報を収集し、整理する力	0.561	0.293
Q11_O. 目標に向かって集団や組織を動かす力	0.556	0.079
Q11_I. 常識にとらわれることなく批判的に考える力	0.422	0.310
Q11_E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解	-0.246	0.897
Q11_D. 外国語の運用能力	-0.080	0.740
Q11_B. 専門分野以外の幅広い知識	0.108	0.698
Q11_G. 自分の考えを他者に文章で伝える力	0.255	0.577
Q11_H. 自分の考えを他者に口頭で伝える力	0.329	0.541
Q11_A. 専門分野の知識	0.159	0.533
Q11_C. 将来の職業に関連する知識や技能	0.262	0.426
因子間相関係数		0.757
因子1 = 課題解決・協調能力($\alpha = .92$)		
因子2 = 知識と伝達能力($\alpha = .88$)		

また、この因子分析の因子得点を従属変数とした分散分析（※1 Welchの方法）と多重比較（※2 Games-Howellの方法による）を行った（表10）ところ、両因子で有意な差が認められ、クラスタ4が他のクラスタより有意に高い学修実感を得ていることがわかった（図2）。

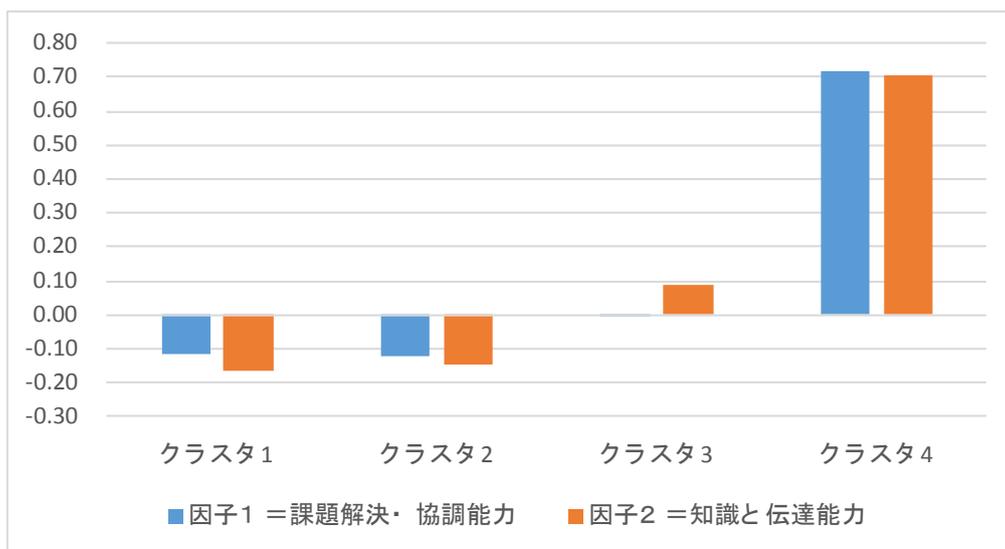
表10 因子ごとの分散分析結果

項目名	分散分析(※1)の結果	多重比較(※2)
因子1 = 課題解決・協調能力	p < .01	C4 ≫ C3 > C2 > C1
因子2 = 知識と伝達能力	p < .01	C4 ≫ C3 > C2 > C1

※1 Welchの補正による

※2 Games-Howellの方法による（ ”≫”は5%水準で有意な差、 ”>”は偶然の差を示す）

図2 クラスタ別の学修実感因子得点の平均（標準得点）



■分析方法の詳細

1. 分析に向けたデータの整理と確認

まず、「Q07 あなたは、授業期間中（2017年4月～2018年1月）、以下のことがらに1週間あたり平均でどのくらいの時間を使いましたか」のうち「W.睡眠」において、10時間以下と回答しているデータ（205件、33.3%）は、明らかに設問の内容を誤認識している（この質問について、1日あたりとして回答している）と判断し、本章の分析全体から除外した。（このことは、調査自体の課題として、次年度には教示方法に修正を加え、改善する予定である。）

2. 学生の意欲的な取り組みの類型化

本調査においては、学生が大学内外での様々な学習や活動にどの程度意欲的に取り組んでいるかを、授業科目やその他の資格勉強、読書などのそれぞれについて「Q08 あなたは、大学入学後、これまで大学の授業やその他の学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。」という設問で尋ねた。また、課外活動やその他のアルバイトなどのそれぞれについて「Q10 あなたは、大学入学後、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。」という設問で尋ねた。どちらも、「経験しなかった」を0とし、「全く意欲的でなかった（1）」～「とても意欲的だった（4）」の5件法である。これらの計20項目の回答を用いて、学生が「意欲的に取り組んだことの類型」を検討した。

これらの項目について、項目間の相関係数を算出したところ、190通りの組み合わせのうち、絶対値で0.2を超える相関係数は30（全体の15.8%、最も強いもので0.44）であった。このことと、後の解釈可能性を検討したうえで、項目の集約は行わずに次の分析に入ることとした。

Q08とQ10の各項目の得点をもとに非階層的クラスタ分析を行い、クラスタ数（＝「意欲的に取り組んだことの類型」のパターン数）3～8つの結果で解釈可能性を比較検討した結果、4クラスタが妥当と考えられた。

付録 表 クラスタ別の学習・活動・生活関連時間（Q06・Q07）の平均（1週間あたり）

	クラスタ1		クラスタ2		クラスタ3		クラスタ4	
6_A. 基礎教養科目への出席	3.72	(4.35)	2.21	(2.99)	4.40	(2.85)	3.87	(3.79)
6_B. 外国語科目への出席	4.15	(2.16)	3.86	(2.87)	4.68	(1.86)	3.33	(2.39)
6_C. 情報科目への出席	1.25	(0.51)	1.38	(0.74)	1.29	(0.51)	1.27	(0.40)
6_D. スポーツ・健康科学科目への出席	0.64	(0.78)	0.42	(0.65)	1.07	(0.52)	0.67	(0.73)
6_E. 自学科の専門科目（講義）への出席	5.90	(3.66)	6.94	(3.72)	5.78	(2.83)	5.76	(3.92)
6_F. 自学科の専門科目（演習）への出席	1.71	(1.66)	1.60	(1.83)	1.92	(1.70)	2.03	(2.12)
6_G. 自学科の専門科目（実験・実習）への出席	0.41	(1.15)	0.19	(0.84)	0.53	(1.43)	0.61	(1.44)
6_H. 他学科の専門科目（講義・演習）への出席	0.51	(1.06)	0.65	(1.15)	0.51	(0.96)	0.45	(0.90)
6_I. 資格課程の科目（講義・演習・実習）への出席	0.62	(1.13)	0.44	(0.98)	0.47	(0.99)	1.03	(1.76)
6_J. キャリアデザイン関係の科目への出席	0.39	(0.62)	0.35	(0.59)	0.37	(0.55)	0.83	(1.62)
7_A. 基礎教養科目に関する学習	0.66	(1.56)	0.57	(1.20)	0.92	(0.98)	1.27	(2.52)
7_B. 外国語科目に関する学習	1.86	(1.92)	2.06	(2.28)	2.56	(1.78)	1.83	(1.66)
7_C. 情報科目に関する学習	0.54	(1.20)	0.75	(1.00)	0.48	(0.54)	0.38	(0.59)
7_D. スポーツ・健康科学科目に関する学習	0.21	(1.51)	0.05	(0.28)	0.10	(0.34)	0.09	(0.26)
7_E. 自学科の専門科目（講義）に関する学習	1.76	(1.94)	2.28	(2.32)	2.86	(4.84)	2.65	(2.83)
7_F. 自学科の専門科目（演習）に関する学習	1.50	(2.02)	1.21	(1.59)	2.44	(3.64)	1.52	(1.44)
7_G. 自学科の専門科目（実験・実習）に関する学習	0.20	(0.66)	0.17	(0.87)	0.48	(1.60)	0.20	(0.59)
7_H. 他学科の専門科目（講義・演習）に関する学習	0.13	(0.41)	0.19	(0.55)	0.27	(0.63)	0.29	(0.74)
7_I. 資格課程の科目（講義・演習・実習）に関する学習	0.24	(0.71)	0.36	(1.20)	0.26	(0.70)	0.67	(1.36)
7_J. キャリアデザイン関係の科目に関する学習	0.07	(0.28)	0.07	(0.28)	0.15	(0.37)	0.20	(0.45)
7_K. 大学で取得できない資格・検定試験のための学習	0.89	(2.88)	0.67	(1.62)	0.41	(1.38)	1.12	(1.56)
7_L. A~K以外の学習	0.31	(1.02)	0.42	(1.07)	1.06	(2.13)	2.45	(8.80)
7_M. A~Lの学習以外の読書	0.89	(1.57)	1.17	(3.29)	2.36	(3.12)	1.64	(2.38)
7_N. 新聞（インターネット上での紙面を含む）を読む	0.95	(1.58)	0.63	(1.53)	1.21	(1.71)	1.33	(2.37)
7_O. 部活動（部・同好会・愛好会）	10.43	(9.72)	0.03	(0.22)	1.19	(4.37)	4.50	(10.59)
7_P. サークル活動	0.53	(1.94)	3.29	(4.14)	1.29	(2.33)	3.44	(4.48)
7_Q. ボランティア活動	0.40	(2.62)	0.24	(1.34)	0.03	(0.16)	0.47	(2.11)
7_R. アルバイト・仕事	7.96	(6.34)	14.20	(8.07)	6.11	(6.91)	9.45	(7.08)
7_S. 交友・趣味・娯楽	7.73	(7.02)	9.57	(8.54)	9.98	(7.76)	7.67	(8.36)
7_T. インターネットの閲覧（N. 新聞を読むは除く）	8.90	(9.00)	10.61	(9.09)	8.73	(6.11)	5.18	(6.16)
7_U. 大学への通学時間（往復の合計）	9.15	(6.75)	8.81	(5.48)	10.35	(6.88)	7.09	(5.98)
7_V. 私的な生活時間（食事・入浴等）	18.09	(8.83)	18.72	(10.97)	19.46	(9.74)	15.24	(10.00)
7_W. 睡眠	42.72	(6.78)	42.20	(7.70)	42.26	(8.18)	43.02	(14.47)

()内は標準偏差

3. 2年生の分析

3-1. 分析の方法

本章では、1年生の分析と同様に、まず2年生の回答について、データを整理した上で、授業期間中の意欲的な取り組みに関する回答をもとに2年生を類型化し、その類型をもって学習や課外活動に費やした時間や学び方、学修実感などの違いを分析した。(方法の詳細は後述「分析方法の詳細」を参照)

3-2. 類型化の結果

類型化の結果として、4つのクラスタ(群)に分けることによって解釈等が可能で特徴が見られると判断した。以下に、各クラスタの意欲的な取り組みに関する特徴を記載し、平均値をグラフ化した。各項目の平均値と標準偏差(表1)、授業や活動の経験ありの割合(表2)、各クラスタの学部別人数構成(表3)、各項目のクラスタ間の差をみた分散分析の結果(表4)も併せて示す。

【クラスタ1：課外活動は主にサークルである学生】 1-ブルー

サークル活動には比較的意欲的に取り組んでいるが、その他ではあまり意欲的な取り組みをしていない学生。就職と関連しないアルバイトの経験率は73.3%だが、他と比較して意欲が高いとはいえなかった。

【クラスタ2：課外活動は主に部活動である学生】 1-オレンジ

部活動を行っている割合が97.7%であり、部活動に熱心である学生。授業等への意欲的な取り組みでは、資格課程の科目がクラスタ1やクラスタ3と比較して高い。アルバイトの経験率は58.1%。

【クラスタ3：自主学習に意欲的で課外活動はしていない学生】 1-グレー

大学の授業とは関連しない自主学習の項目で比較的意欲が高く、他学科の専門科目も取っている学生。課外活動へはあまり参加しておらず、アルバイトの経験率は56.0%。理学部の学生が含まれなかった。

【クラスタ4：さまざまな学習に意欲的な学生】 1-イエロー

大学内外の学習について、資格課程の科目以外の全ての項目で経験率が80%を超えており、意欲も高いと回答した学生。課外活動はサークル活動が比較的多く、アルバイトの経験率は72.7%。しかし、クラスタ4は全体で11名(7.9%)と少数派で、法学部と国際社会科学部の学生が含まれなかった。

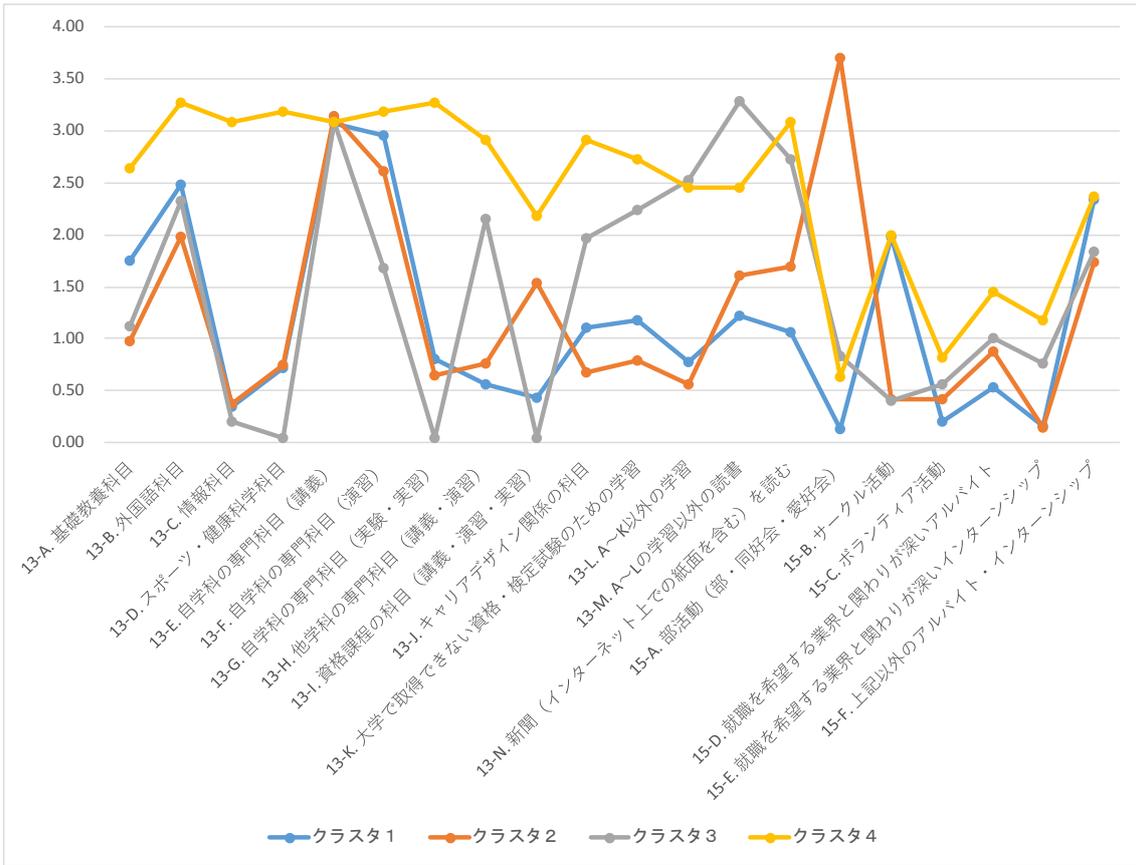


図1 クラスタごとの取り組み意欲 (Q8 と Q10) の平均

表1 各クラスターの意欲的な取り組み項目の平均値

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4
13-A. 基礎教養科目	1.75 (1.45)	0.98 (1.32)	1.12 (1.64)	2.64 (1.36)
13-B. 外国語科目	2.48 (1.54)	1.98 (1.54)	2.32 (1.77)	3.27 (0.65)
13-C. 情報科目	0.35 (0.97)	0.37 (1.02)	0.20 (0.65)	3.09 (0.70)
13-D. スポーツ・健康科学科目	0.72 (1.47)	0.74 (1.33)	0.04 (0.20)	3.18 (0.60)
13-E. 自学科の専門科目(講義)	3.07 (0.92)	3.14 (0.68)	3.08 (1.22)	3.09 (0.54)
13-F. 自学科の専門科目(演習)	2.95 (1.33)	2.60 (1.64)	1.68 (1.89)	3.18 (0.60)
13-G. 自学科の専門科目 (実験・実習)	0.80 (1.52)	0.65 (1.36)	0.04 (0.20)	3.27 (0.65)
13-H. 他学科の専門科目 (講義・演習)	0.57 (1.05)	0.77 (1.11)	2.16 (1.77)	2.91 (1.14)
13-I. 資格課程の科目(講義・演習・実習)	0.43 (1.17)	1.53 (1.61)	0.04 (0.20)	2.18 (1.47)
13-J. キャリアデザイン関係の科目	1.10 (1.64)	0.67 (1.21)	1.96 (1.77)	2.91 (1.14)
13-K. 大学で取得できない資格・検定試験のための学習	1.18 (1.61)	0.79 (1.39)	2.24 (1.69)	2.73 (1.01)
13-L. A~K以外の学習	0.78 (1.24)	0.56 (1.01)	2.52 (1.71)	2.45 (1.29)
13-M. A~Lの学習以外の読書	1.22 (1.42)	1.60 (1.55)	3.28 (0.98)	2.45 (1.29)
13-N. 新聞(インターネット上での紙面を含む)を読む	1.07 (1.23)	1.70 (1.41)	2.72 (1.02)	3.09 (0.70)
15-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	0.13 (0.50)	3.70 (0.74)	0.84 (1.38)	0.64 (1.43)
15-B. サークル活動	1.98 (1.69)	0.42 (1.07)	0.40 (1.16)	2.00 (1.95)
15-C. ボランティア活動	0.20 (0.76)	0.42 (1.20)	0.56 (1.36)	0.82 (1.47)
15-D. 就職を希望する業界と関わりが深いアルバイト	0.53 (1.21)	0.88 (1.59)	1.00 (1.56)	1.45 (1.75)
15-E. 就職を希望する業界と関わりが深いインターンシップ	0.17 (0.67)	0.14 (0.68)	0.76 (1.56)	1.18 (1.72)
15-F. 上記以外のアルバイト・インターンシップ	2.33 (1.55)	1.74 (1.62)	1.84 (1.72)	2.36 (1.63)

表2 クラスタ別の各科目・活動（Q13とQ15）の経験ありの人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4
13-A. 基礎教養科目	63.3%	39.5%	36.0%	81.8%
13-B. 外国語科目	76.7%	67.4%	68.0%	100.0%
13-C. 情報科目	13.3%	14.0%	12.0%	100.0%
13-D. スポーツ・健康科学科目	20.0%	25.6%	4.0%	100.0%
13-E. 自学科の専門科目（講義）	96.7%	100.0%	92.0%	100.0%
13-F. 自学科の専門科目（演習）	86.7%	74.4%	48.0%	100.0%
13-G. 自学科の専門科目 （実験・実習）	23.3%	20.9%	4.0%	100.0%
13-H. 他学科の専門科目 （講義・演習）	25.0%	34.9%	64.0%	90.9%
13-I. 資格課程の科目（講義・演習・実習）	13.3%	53.5%	4.0%	72.7%
13-J. キャリアデザイン関係の科目	33.3%	25.6%	60.0%	90.9%
13-K. 大学で取得できない資格・検定試験のための学習	40.0%	27.9%	68.0%	90.9%
13-L. A～K以外の学習	33.3%	27.9%	72.0%	81.8%
13-M. A～Lの学習以外の読書	50.0%	60.5%	96.0%	81.8%
13-N. 新聞（インターネット上での紙面を含む）を読む	50.0%	67.4%	96.0%	100.0%
15-A. 部活動 （部・同好会・愛好会）	6.7%	97.7%	32.0%	18.2%
15-B. サークル活動	61.7%	14.0%	12.0%	54.5%
15-C. ボランティア活動	48.6%	49.3%	50.0%	52.9%
15-D. 就職を希望する業界と関わりが深いアルバイト	18.3%	25.6%	32.0%	45.5%
15-E. 就職を希望する業界と関わりが深いインターンシップ	6.7%	4.7%	20.0%	36.4%
15-F. 上記以外のアルバイト・インターンシップ	73.3%	58.1%	56.0%	72.7%

表3 各クラスターの学部別人数（カッコ内は学部内の人数割合）

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	合計
法学部	7 (33.3%)	5 (23.8%)	9 (42.9%)	0 (0.0%)	21 (100.0%)
経済学部	17 (39.5%)	14 (32.6%)	9 (20.9%)	3 (7.0%)	43 (100.0%)
文学部	25 (51.0%)	15 (30.6%)	4 (8.2%)	5 (10.2%)	49 (100.0%)
理学部	4 (30.8%)	6 (46.2%)	0 (0.0%)	3 (23.1%)	13 (100.0%)
国際社会科学部	7 (53.8%)	3 (23.1%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)	13 (100.0%)
合計	60 (43.2%)	43 (30.9%)	25 (18.0%)	11 (7.9%)	139 (100.0%)

表4 意欲的な取り組みに関する一要因分散分析の結果

項目名	分散分析の結果(※1)	多重比較(※2)の結果
13-A. 基礎教養科目	p<.01	C1≫C2 C4≫C2,C3
13-B. 外国語科目	p<.01	C4≫C1,C2
13-C. 情報科目	p<.01	C4≫C1,C2,C3
13-D. スポーツ・健康科学科目	p<.01	C1≫C3 C2≫C3 C4≫C1,C2,C3
13-E. 自学科の専門科目(講義)	p>.05	—
13-F. 自学科の専門科目(演習)	p<.01	C1≫C3 C4≫C3
13-G. 自学科の専門科目 (実験・実習)	p<.01	C1≫C3 C2≫C3 C4≫C1,C2,C3
13-H. 他学科の専門科目 (講義・演習)	p<.01	C3≫C1,C2 C4≫C1,C2
13-I. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	p<.01	C2≫C1,C3 C4≫C1,C3
13-J. キャリアデザイン関係の 科目	p<.01	C3≫C2 C4≫C1,C2
13-K. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	p<.01	C3≫C2 C4≫C1,C2
13-L. A~K以外の学習	p<.01	C3≫C1,C2 C4≫C1,C2
13-M. A~Lの学習以外の読書	p<.01	C3≫C1,C2
13-N. 新聞(インターネット上 での紙面を含む)を読む	p<.01	C3≫C1,C2 C4≫C1,C2
15-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	p<.01	C2≫C1,C3,C4
15-B. サークル活動	p<.01	C1≫C2,C3
15-C. ボランティア活動	p>.05	—
15-D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	p>.05	—
15-E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	p>.05	—
15-F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	p>.05	—

※1 Welchの補正による

※2 Games-Howellの方法による(“≫”は5%水準で有意な差、“>”は偶然の差を示す)

3-2. 学生の類型と学習や課外活動、その他の活動へ使った時間の関係

「Q11 あなたは、授業期間中（2017年4月～2018年1月）、以下の授業に1週間あたり平均でどのくらいの時間出席していましたか。」として計10項目の授業科目で1週間あたりの出席時間を、「Q12 あなたは、授業期間中（2017年4月～2018年1月）、以下のことがらに1週間あたり平均でどのくらいの時間を使いましたか。」として、計23項目で1週間あたりの活動時間数を尋ねている。ここでは、Q06、Q07の計33項目を、以下のように集約した。

【集約方法】

授業への出席時間合計（Q06の全合計）

授業の時間外学習時間合計（Q07のA～Jの合計）

自主学習時間（Q07のK～Nの合計）

部活・サークル・ボランティア（Q07のO～Qの合計）

アルバイト（Q07のR）

交友・趣味・娯楽（Q07のS・Tの合計）

通学・生活・睡眠（Q07のU～Wの合計）

3-1で類型化したクラスタ別に、集約した時間の平均値と標準偏差を算出した（表5）。「自主学習時間」「部活・サークル・ボランティア」「アルバイト」に関しては、クラスタ内でも開きが大きく、平均値よりも標準偏差の方が大きい場合が見受けられる。これは、同じクラスタ内の学生でも、それぞれの活動に使っていた時間がばらばらであることを示している。従って、ここでは標準偏差の値にも留意しながら各クラスタの特徴を記述したい。

表5 クラスタ別の各活動時間の平均値

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	全体
授業への出席時間合計 (Q11の全合計)	16.93 (5.01)	18.42 (4.63)	16.35 (7.35)	21.09 (8.04)	17.62 (5.75)
授業の時間外学習時間合計 (Q12のA~Jの合計)	8.81 (7.61)	8.61 (6.32)	9.22 (7.32)	9.86 (11.15)	8.90 (7.44)
自主学習時間 (Q12のK~Nの合計)	4.84 (9.66)	5.38 (7.04)	12.69 (8.91)	2.68 (4.33)	6.25 (8.93)
部活・サークル・ボランティア (Q12のO~Qの合計)	3.02 (3.52)	11.43 (8.75)	2.74 (5.75)	4.32 (7.14)	5.67 (7.29)
アルバイト (Q12のR) (再掲)	13.21 (7.31)	8.81 (6.74)	11.36 (10.63)	9.77 (8.93)	11.24 (8.11)
交友・趣味・娯楽 (Q12のS・Tの合計)	21.08 (11.12)	19.74 (11.02)	21.08 (14.28)	18.14 (15.14)	20.43 (11.95)
通学・生活・睡眠 (Q12のU~Wの合計)	68.42 (11.45)	71.93 (12.80)	72.36 (14.77)	59.73 (21.10)	69.53 (13.70)
合計	136.30 (19.52)	144.33 (20.10)	145.80 (21.83)	125.59 (27.02)	139.64 (21.35)

※ 単位は時間 ()内は標準偏差

クラスタ1は、項目ごとに全体平均との違いでみると、学習時間・課外活動はやや少ないが、アルバイトの時間は平均よりやや多く、クラスタの中で最も多い。このクラスタは、サークル活動とアルバイトの両方に意欲的であるとみられたが、費やす時間としてはアルバイトを行う時間が長いといえる。

クラスタ2で特徴的なのは、課外活動に使う時間が非常に多いことである。このクラスタは、部活動への参加率が高く意欲的でもあったが、かける時間についても多いといえる。

クラスタ3で特徴的なのは、自主学習時間が他のクラスタと比較して非常に長いことである。授業に関する授業時間外学習時間は他と比較しても同程度だが、詳細を見ると、特に長いのは、自主的な読書(項目M)であると見受けられる(付録表参照)。

クラスタ4は、授業への出席時間と、授業に関する授業時間外学習は平均に比べてやや多いが、その他の項目については全体的にやや少なく、自主学習時間が比較的短い傾向にあると見受けられた。

3-3. 学生の類型と大学入学後の学び方の関係

「Q14 あなたは、学部2年生の授業期間中（2017年4月～2018年1月）、どのような学び方をしてきましたか。」として、計7項目でどのような学び方をしているかを尋ねている。ここでは、クラスタによって学び方の違いがあるかを検討するために、Q14の各項目を従属変数とする分散分析を行った。

表6にはクラスタごとの各項目の平均値と標準偏差、表7にはWelchの補正による分散分析結果とGames-Howellの方法による多重比較の結果を示している。（有意水準は5%として、5%未満であれば多重比較を行った。表には1%を下回るF比であったものにはその旨記載している。）

表6 各クラスタの学び方の平均値と標準偏差

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4
Q14-A. 学術的な論文・書籍を積極的に読んだ	2.17 (1.09)	2.44 (1.08)	3.04 (0.89)	3.00 (1.00)
Q14-B. 文学作品を積極的に読んだ	1.88 (0.99)	2.21 (1.12)	2.52 (0.77)	2.27 (1.01)
Q14-C. 新聞を積極的に読んだ	1.75 (0.86)	2.21 (1.08)	2.72 (0.84)	2.55 (0.93)
Q14-D. 授業で課されたレポートなどはしっかり準備して書いた	3.58 (0.67)	3.53 (0.63)	3.64 (0.57)	3.00 (0.89)
Q14-E. 暗記によって試験を乗り切るような学習が多くを占めた	2.83 (0.78)	2.58 (0.85)	2.80 (0.58)	3.00 (0.63)
Q14-F. 授業内容が自分なりに理解できるまで考えたり調べたりした	3.15 (0.63)	3.05 (0.72)	3.28 (0.61)	2.91 (0.83)
Q14-G. 授業をきっかけにして自分なりの関心を形成していった	3.10 (0.71)	3.16 (0.65)	3.36 (0.70)	3.00 (0.77)

() 内は標準偏差

表 7 学び方の分散分析結果

項目	分散分析結果 (※1)	多重比較結果 (※2)
14-A. 学術的な論文・書籍を積極的に 読んだ	p<.01	C3≫C1
14-B. 文学作品を積極的に読んだ	p<.05	C3≫C1
14-C. 新聞を積極的に読んだ	p<.01	C3≫C1
14-D. 授業で課されたレポートなどはしっ かり準備して書いた	p>.05	—
14-E. 暗記によって試験を乗り切る ような学習が多くを占めた	p>.05	—
14-F. 授業内容が自分なりに理解できる まで考えたり調べたりした	p>.05	—
14-G. 授業をきっかけにして自分なりの 関心を形成していった	p>.05	—

※1 Welchの補正による
※2 Games-Howellの方法による(" ≫" は5%水準で有意な差、" >" は偶然の差を示す)

これらの結果を見ると、クラス間の違いは、Q14-A～C以外では有意な差は見られなかった。また、有意な差が見られたQ14-A～Cでも、クラス3とクラス1を比較してクラス3のほうが有意に高いという結果のみが得られた。平均値にも留意しながら考えると、学術的な論文・書籍や文学作品、新聞とも、クラス3は比較的読み、クラス1はあまり読んでいないと回答したと言えるだろう。クラス2や4はその間に位置し、他のクラスとの明確な違いは見受けられなかった。自主的な学習に意欲的なクラス3の学生は、読書の量や種類が多いことがうかがえる。

Q14-D、Q14-F、Q14-Gはクラス間で有意差はなく、各クラスの平均値が3を超えているため、これらの学び方はクラスに関わらず行われていると見てよいだろう。Q14-Eについては、クラス間の有意な差はなく、平均が2.58～3.00の間であるので、比較的行われている学び方であると見受けられる。

3-4. 学生の類型と身につけた知識や能力の関係

Q18 では、「あなたは、現時点で、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができましたか。」として、計 17 項目で学修した実感を尋ねている。また、2 年生に対しては、Q9 において、「あなたは、学部 1 年生の終わりの段階で、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができましたか。」として、同じ項目で 1 年次での学修した実感も尋ねている。

これらの項目について、クラスタおよび質問で尋ねた時期の違いによって、知識・能力の学修実感の平均値に差があるかを確認するために、独立変数をクラスタと時期、従属変数を質問の各項目とした二要因分散分析を行った。結果として、すべての項目で交互作用は有意ではなく、「D. 外国語の能力」以外で時期の主効果が有意であった（表 8）。このことと各項目の平均値から、D 以外の各項目で 1 年次終了時よりも 2 年次終了時の回答において、高い学修実感の値を回答したことがわかり、学修がなされていると言えるが、クラスタによる違いは見受けられなかった。また、「D. 外国語の能力」では有意な結果は得られなかったため、クラスタ間の違いも、時期による違いも見受けられなかった。したがって、どのクラスタでも、外国語に関しては 2 年次に成長を感じられなかったと言えるだろう。

表8 身につけた能力に関する二要因分散分析結果

項目	分散分析の結果	時期 (※)	クラスタ1		クラスタ2		クラスタ3		クラスタ4	
			平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
A. 専門分野の知識	時期: $p < .01$	Q9-A	6.93	(1.89)	7.09	(1.57)	7.08	(1.71)	7.36	(1.86)
		Q18-A	7.48	(1.57)	7.53	(1.82)	7.88	(1.45)	7.64	(1.80)
B. 専門分野以外の幅広い知識	時期: $p < .01$	Q9-B	6.08	(1.96)	6.14	(1.82)	6.92	(1.91)	6.09	(2.43)
		Q18-B	6.53	(1.90)	6.65	(1.91)	7.52	(1.50)	7.00	(1.55)
C. 将来の職業に関連する知識や技能	時期: $p < .01$	Q9-C	5.47	(2.04)	5.74	(2.16)	6.40	(1.73)	6.09	(2.17)
		Q18-C	6.33	(1.91)	6.30	(2.25)	7.36	(1.82)	7.09	(1.70)
D. 外国語の運用能力	有意差なし	Q9-D	5.65	(2.10)	4.79	(2.40)	5.92	(2.16)	6.73	(1.95)
		Q18-D	5.77	(2.36)	5.33	(2.54)	6.16	(2.39)	7.00	(1.95)
E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解	時期: $p < .01$	Q9-E	6.07	(2.54)	5.74	(2.14)	6.28	(2.44)	5.82	(2.44)
		Q18-E	6.47	(2.41)	6.14	(2.10)	6.84	(2.13)	6.91	(1.87)
F. 目標を立てて計画的に行動する力	時期: $p < .01$	Q9-F	6.68	(2.14)	6.47	(2.28)	7.04	(1.90)	7.00	(1.95)
		Q18-F	7.17	(1.84)	7.07	(1.92)	7.44	(1.69)	7.36	(1.75)
G. 自分の考えを他者に文章で伝える力	時期: $p < .01$	Q9-G	6.43	(1.92)	6.42	(1.83)	7.16	(1.89)	6.45	(2.02)
		Q18-G	7.03	(1.75)	7.00	(1.63)	8.04	(1.31)	7.36	(1.80)
H. 自分の考えを他者に口頭で伝える力	時期: $p < .01$	Q9-H	6.23	(2.03)	6.47	(1.94)	6.44	(2.43)	6.55	(2.11)
		Q18-H	6.78	(1.91)	7.16	(1.82)	7.12	(2.20)	7.27	(1.62)
I. 常識にとらわれることなく批判的に考える力	時期: $p < .01$	Q9-I	6.32	(2.08)	6.28	(1.87)	6.92	(2.36)	6.91	(1.81)
		Q18-I	6.93	(1.88)	6.79	(1.74)	7.68	(2.10)	7.00	(1.48)
J. 情報を収集し、整理する力	時期: $p < .01$	Q9-J	6.67	(1.60)	6.93	(1.79)	7.44	(1.66)	6.45	(1.81)
		Q18-J	7.10	(1.66)	7.07	(1.76)	8.16	(1.25)	7.27	(1.62)
K. 現状を分析し、課題を明らかにする力	時期: $p < .01$	Q9-K	6.62	(1.99)	6.65	(1.77)	7.16	(1.77)	7.09	(2.12)
		Q18-K	7.08	(1.84)	7.05	(1.76)	7.88	(1.42)	7.36	(1.69)
L. 発見した課題の解決策を提示する力	時期: $p < .01$	Q9-L	6.32	(1.93)	6.44	(1.97)	6.96	(1.99)	7.00	(2.10)
		Q18-L	6.82	(1.98)	6.79	(1.57)	7.64	(1.63)	7.18	(1.60)
M. 他者の話をしっかり聴く力	時期: $p < .01$	Q9-M	7.58	(1.57)	7.07	(2.04)	7.40	(1.80)	7.27	(2.37)
		Q18-M	7.75	(1.45)	7.72	(1.91)	8.16	(1.40)	7.45	(1.92)
N. 他者と協力してものごとを進める力	時期: $p < .01$	Q9-N	7.33	(1.53)	6.70	(1.97)	6.68	(2.46)	6.82	(2.18)
		Q18-N	7.37	(1.71)	7.19	(2.14)	7.60	(2.00)	7.36	(1.80)
O. 目標に向かって集団や組織を動かす力	時期: $p < .01$	Q9-O	6.40	(2.16)	6.05	(2.06)	6.12	(2.70)	6.73	(2.10)
		Q18-O	6.57	(2.24)	6.81	(2.05)	6.88	(2.35)	7.18	(1.60)
P. 自分の適性や能力を把握する力	時期: $p < .05$	Q9-P	6.63	(1.79)	6.53	(1.91)	6.84	(2.21)	7.00	(2.10)
		Q18-P	7.02	(1.72)	6.98	(1.37)	7.48	(1.66)	7.09	(1.51)
Q. 広い視野から人間を探究する力	時期: $p < .01$	Q9-Q	6.72	(1.87)	6.42	(2.15)	6.84	(2.23)	6.91	(2.12)
		Q18-Q	7.17	(1.80)	7.02	(1.57)	7.44	(1.56)	7.27	(1.74)

※ Q9が1年終了時、Q18が2年終了時

3-5. 学生の類型と夏季休暇中の学習や課外活動、その他の活動へ使った時間の関係

Q17では、「あなたは、学部2年生の夏季休暇中（2017年8月～9月）、以下のことから1週間あたり平均でどのくらいの時間を使いましたか。」として、夏季休暇中の大学での授業に関する学習やその他の学習や読書、課外活動やアルバイト等に関して使った時間を尋ねている。

各項目、クラスタ別に平均時間と標準偏差を算出した（表9）。標準偏差が非常に大きい箇所もみられるため、この点に留意しながら各クラスタの特徴について検討したい。

クラスタ1は、サークル活動とアルバイトへ使用した時間が比較的多いと思われる。このクラスタは授業期間中の時間の使い方と同様、サークル活動よりアルバイトにより多くの時間を使う傾向が見られるが、他のクラスタも授業期間中に比較してアルバイトに使う時間が増えておりクラスタ1との差が縮まったことがうかがえる。

クラスタ2は、部活動のために使う時間が多い。この点以外は平均的な時間の使い方と言えるだろう。また、部活動を行うためと思われるが、通学時間も他のクラスタと比較して多くなっている。

クラスタ3は、他と比較して、Q17-Dにも見られる読書に使う時間が長いことが特徴と言えるだろう。

クラスタ4はサークル活動に関して比較的時間を使っていることがうかがえる他、Q17-CやQ17-Dに見られるような自主学習にあてる学習時間は少ないことがうかがえる。

表9 クラスタ別の夏季休暇中の使用時間

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	全体
Q17-A. 大学の授業・実験の予習・ 復習・期末課題以外の課題作成の合計	3.42 (5.94)	3.23 (7.97)	4.16 (5.63)	2.25 (2.17)	3.40 (6.36)
Q17-B. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	3.01 (6.57)	1.26 (3.32)	3.48 (7.03)	1.05 (1.68)	2.40 (5.62)
Q17-C. A・B以外の学習	2.82 (8.55)	1.93 (5.24)	2.92 (3.35)	0.41 (0.97)	2.37 (6.49)
Q17-D. A～Cの学習以外の読書	1.47 (2.98)	2.93 (5.88)	4.94 (5.39)	0.50 (1.02)	2.47 (4.62)
Q17-E. 新聞(インターネット上での 紙面を含む)を読む	0.90 (2.16)	1.87 (2.75)	2.03 (2.01)	0.55 (0.91)	1.38 (2.32)
Q17-F. 部活動(部・同好会・愛好会)	0.30 (1.97)	12.58 (12.08)	0.96 (2.41)	1.64 (4.52)	4.32 (8.91)
Q17-G. サークル活動	2.85 (5.05)	0.28 (0.91)	0.36 (1.44)	2.36 (5.97)	1.57 (3.95)
Q17-H. ボランティア活動	0.14 (0.97)	0.49 (2.48)	0.28 (1.21)	0.27 (0.90)	0.28 (1.62)
Q17-I. アルバイト・仕事	15.38 (12.51)	10.53 (9.49)	10.72 (13.95)	10.45 (10.16)	12.65 (11.89)
Q17-J. 交友・趣味・娯楽	16.87 (12.08)	12.60 (10.58)	15.44 (15.56)	14.82 (13.60)	15.13 (12.46)
Q17-K. インターネットの閲覧	12.95 (10.27)	11.35 (9.73)	10.24 (8.68)	8.18 (12.06)	11.59 (9.98)
Q17-L. 大学への通学時間 (往復の合計)	1.77 (4.74)	6.10 (5.75)	2.54 (3.63)	3.86 (5.00)	3.41 (5.23)
Q17-M. 私的な生活時間 (食事・入浴等)	20.31 (9.64)	19.56 (8.91)	18.98 (10.70)	17.91 (10.10)	19.65 (9.58)
Q17-N. 睡眠	45.10 (9.76)	44.00 (8.38)	48.70 (8.29)	35.55 (16.93)	44.65 (10.23)

3-6. 学生の類型と進路に関する希望や取り組み

Q19では「あなたは、大学卒業後の進路について、現時点でどのような希望を持っていますか。」として現時点（2年生終了時点）の進路希望を、Q20では「あなたは、将来の進路を考えるにあたり、以下に示すことがらについて、どのくらい取り組んできましたか。」として現時点での就職活動状況を尋ねている。

これらについて、回答値の平均と標準偏差を算出した（表10）。また、クラスタを独立変数、Q19、Q20の各項目を従属変数とした分散分析（Welchの補正による）と多重比較

（Games-Howellの方法による）を行った（表11）ところ、Q19-CとQ20-Aで有意な差が認められた。Q19-Cについて、クラスタ2がクラスタ1や3よりも有意に高い志望度を示し、Q20-Aについては、クラスタ3がクラスタ2より有意に高く取り組んでいるという結果になった。

平均値を見ると、Q19-Aで尋ねている民間企業・団体への就職に関してはどのクラスタも平均値で3を超えており、志望度が高いことがうかがえる。Q20-BやQ20-Cでは、どのクラスタでも平均値で2.5を超えており、比較的高い値であると見受けられた。これらの項目は両親や友人と大学卒業後の進路について話したり、社会に出たときの自らの貢献について真剣に考えるといった項目であり、大学2年生からこのようなことへ取り組む学生がある程度いることがうかがえる。

表 10 Q19 と Q20 の各項目の平均と標準偏差

	クラスタ 1	クラスタ 2	クラスタ 3	クラスタ 4
Q19-A. 民間企業・団体への就職 (正社員・任期付社員・臨時社員)	3.19 (0.82)	3.09 (0.87)	3.20 (0.82)	3.09 (0.83)
Q19-B. 公務員 (正職員・任期付職員・臨時職員)	2.46 (1.06)	2.19 (0.98)	2.60 (1.15)	2.82 (0.98)
Q19-C. 小学校～高校教諭 (正職員・任期付職員・非正規職員含む)	1.42 (0.91)	2.02 (1.26)	1.28 (0.54)	2.09 (0.94)
Q19-D. 自営業・家業・起業	1.37 (0.74)	1.42 (0.63)	1.60 (0.96)	1.91 (0.94)
Q19-E. 資格(公認会計士等)の取得	2.05 (1.04)	2.02 (1.08)	2.48 (1.19)	2.45 (0.93)
Q19-F. 大学院等への進学(海外を含む)	1.61 (0.85)	1.53 (0.77)	2.00 (0.91)	2.27 (1.01)
Q19-G. その他	1.34 (0.60)	1.42 (0.82)	1.60 (0.71)	1.73 (0.79)
Q20-A. キャリアデザイン関係の授業に積極的に 取り組んだ	1.46 (1.63)	1.21 (1.34)	2.36 (1.70)	2.00 (1.73)
Q20-B. 入学後、両親や友人などと大学卒業後の 進路についてしっかり話をしてきた	2.54 (1.12)	2.74 (0.93)	2.80 (1.12)	2.64 (1.50)
Q20-C. 自分が社会に出てどのような貢献が できるか真剣に考えてきた	2.53 (0.94)	2.58 (0.98)	2.84 (1.07)	2.55 (1.51)
Q20-D. キャリアセンターが開催している各種 ガイダンス等に積極的に参加した	0.54 (0.92)	0.77 (1.13)	1.12 (1.17)	1.91 (1.64)
Q20-E. インターンシップに積極的に取り組んだ	0.29 (0.83)	0.26 (0.66)	1.00 (1.44)	0.91 (1.45)

表 11 Q19 と Q20 の各項目を従属変数とした分散分析結果

項目	分散分析の結果(※1)	多重比較結果(※2)
Q19-A. 民間企業・団体への就職 (正社員・任期付社員・臨時社員)	p > .05	—
Q19-B. 公務員 (正職員・任期付職員・臨時職員)	p > .05	—
Q19-C. 小学校～高校教諭(正職員・任期付職員・非正規職員含む)	p < .01	C2 ≫ C1、C3
Q19-D. 自営業・家業・起業	p > .05	—
Q19-E. 資格(公認会計士等)の取得	p > .05	—
Q19-F. 大学院等への進学(海外を含む)	p > .05	—
Q19-G. その他	p > .05	—
Q20-A. キャリアデザイン関係の 授業に積極的に取り組んだ	p < .05	C3 ≫ C2
Q20-B. 入学後、両親や友人などと大学卒業後の 進路についてしっかり話をしてきた	p > .05	—
Q20-C. 自分が社会に出てどのような貢献が できるか真剣に考えてきた	p > .05	—
Q20-D. キャリアセンターが開催している 各種ガイダンス等に積極的に参加した	p < .05	有意差なし
Q20-E. インターンシップに積極的に取り組んだ	p > .05	—

※1 Welchの補正による

※2 Games-Howellの方法による("≫"は5%水準で有意な差、 ">"は偶然の差を示す)

■分析方法の詳細

1. 分析に向けたデータの整理と確認

「Q12 あなたは、学部2年生の授業期間中（2017年4月～2018年1月）、以下のことがらに1週間あたり平均でどのくらい時間を使いましたか。」のうち「W.睡眠」において、10時間以下と回答しているデータ（73件）は、明らかに設問の内容を誤認識している（この質問について、1日あたりとして回答している）と判断し、本章の分析全体から除外した。

（このことは、調査自体の課題として、次年度には教示方法に修正を加え、改善する予定である。）したがって、本章における分析対象は、139件（全問回答した210人のうち66.2%）となった。

2. 学生の意欲的な取り組みの類型化

本調査においては、学生が大学内外での様々な学習や活動にどの程度意欲的に取り組んでいるかを、授業科目やその他の資格勉強、読書などのそれぞれについて「Q13 あなたは、学部2年生の授業期間中（2017年4月～2018年1月）、大学の授業やその他の学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。」という設問で尋ねた。また、課外活動やその他のアルバイトなどのそれぞれについて「Q15 あなたは、学部2年生の授業期間中（2017年4月～2018年1月）、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。」という設問で尋ねた。どちらも、「経験しなかった」を0とし、「全く意欲的でなかった（1）」～「とても意欲的だった（4）」の5件法である。これらの計20項目の回答を用いて、学生が「意欲的に取り組んだことの類型」を検討した。

これらの項目について、項目間の相関係数を算出したところ、190通りの組み合わせのうち、絶対値で0.2を超える相関係数は33（全体の17.4%、最も強いもので0.48）であった。このことと、後の解釈可能性を検討したうえで、項目の集約は行わずに次の分析に入ることとした。

Q13とQ15の各項目の得点をもとに非階層的クラスタ分析を行い、クラスタ数（＝「意欲的に取り組んだことの類型」のパターン数）3～8つの結果で解釈可能性を比較検討した結果、4クラスタが妥当と考えられた。

付録 表 クラスタ別の学習・活動・生活関連時間 (Q11・Q12) の平均 (1週あたり)

	クラスタ1		クラスタ2		クラスタ3		クラスタ4	
Q11_A. 基礎教養科目への出席	1.04	(1.20)	1.08	(1.89)	0.96	(2.48)	1.59	(1.61)
Q11_B. 外国語科目への出席	2.64	(2.51)	2.29	(2.29)	2.07	(1.84)	2.73	(2.38)
Q11_C. 情報科目への出席	0.17	(0.52)	0.21	(0.54)	0.08	(0.28)	0.96	(1.21)
Q11_D. スポーツ・健康科学科目への出席	0.20	(0.57)	0.27	(0.55)	0.00	(0.00)	1.46	(1.78)
Q11_E. 自学科の専門科目(講義)への出席	8.79	(4.48)	8.88	(3.76)	9.81	(7.01)	7.00	(4.46)
Q11_F. 自学科の専門科目(演習)への出席	2.02	(1.79)	1.70	(1.75)	1.20	(1.70)	1.45	(1.51)
Q11_G. 自学科の専門科目(実験・実習)への出席	0.77	(2.38)	0.40	(1.21)	0.00	(0.00)	3.05	(5.75)
Q11_H. 他学科の専門科目(講義・演習)への出席	0.49	(1.11)	0.77	(1.41)	1.36	(1.62)	1.91	(2.23)
Q11_I. 資格課程の科目(講義・演習・実習)への出席	0.47	(1.36)	2.51	(3.49)	0.04	(0.20)	0.27	(0.90)
Q11_J. キャリアデザイン関係の科目への出席	0.34	(0.56)	0.31	(0.52)	0.83	(0.84)	0.68	(1.03)
Q12_A. 基礎教養科目に関する学習	0.35	(0.76)	0.07	(0.23)	0.28	(0.74)	0.41	(0.92)
Q12_B. 外国語科目に関する学習	1.83	(2.24)	1.59	(1.97)	1.62	(1.76)	2.00	(2.90)
Q12_C. 情報科目に関する学習	0.10	(0.44)	0.03	(0.15)	0.04	(0.20)	0.36	(0.90)
Q12_D. スポーツ・健康科学科目に関する学習	0.27	(1.16)	0.06	(0.27)	0.00	(0.00)	0.36	(0.90)
Q12_E. 自学科の専門科目(講義)に関する学習	2.99	(4.74)	2.57	(2.16)	4.22	(4.61)	3.18	(5.21)
Q12_F. 自学科の専門科目(演習)に関する学習	2.18	(2.46)	2.56	(3.16)	1.70	(3.25)	1.18	(1.17)
Q12_G. 自学科の専門科目(実験・実習)に関する学習	0.34	(1.02)	0.26	(0.93)	0.00	(0.00)	1.32	(2.51)
Q12_H. 他学科の専門科目(講義・演習)に関する学習	0.28	(0.94)	0.35	(0.71)	1.18	(2.33)	0.36	(0.92)
Q12_I. 資格課程の科目(講義・演習・実習)に関する学習	0.38	(1.51)	1.06	(1.88)	0.00	(0.00)	0.27	(0.90)
Q12_J. キャリアデザイン関係の科目に関する学習	0.09	(0.36)	0.07	(0.26)	0.18	(0.38)	0.41	(0.92)
Q12_K. 大学で取得できない資格・検定試験のための学習	2.30	(8.09)	1.56	(4.03)	2.98	(6.11)	1.27	(3.03)
Q12_L. A~K以外の学習	1.09	(5.26)	0.44	(1.39)	2.86	(4.00)	0.41	(0.97)
Q12_M. A~Lの学習以外の読書	0.84	(1.80)	1.87	(4.18)	4.58	(4.94)	0.32	(0.90)
Q12_N. 新聞(インターネット上での紙面を含む)を読む	0.61	(1.05)	1.51	(2.40)	2.27	(2.31)	0.68	(1.19)
Q12_O. 部活動(部・同好会・愛好会)	0.23	(1.32)	10.83	(9.12)	1.14	(2.40)	1.64	(4.52)
Q12_P. サークル活動	2.78	(3.43)	0.40	(1.18)	0.36	(1.41)	2.41	(5.95)
Q12_Q. ボランティア活動	0.00	(0.00)	0.21	(1.10)	1.24	(5.09)	0.27	(0.91)
Q12_R. アルバイト・仕事	13.21	(7.31)	8.81	(6.74)	11.36	(10.63)	9.77	(8.93)
Q12_S. 交友・趣味・娯楽	9.92	(6.85)	9.63	(6.89)	11.28	(10.90)	9.41	(8.60)
Q12_T. インターネットの閲覧(N.新聞を読むは除く)	11.16	(8.81)	10.12	(7.52)	9.80	(7.12)	8.73	(10.46)
Q12_U. 大学への通学時間(往復の合計)	9.81	(5.82)	10.81	(7.01)	9.38	(5.40)	8.55	(5.97)
Q12_V. 私的な生活時間(食事・入浴等)	17.96	(8.44)	18.35	(8.24)	17.56	(10.21)	16.46	(10.92)
Q12_W. 睡眠	40.65	(8.22)	42.77	(5.77)	45.42	(8.27)	34.73	(12.74)

()内は標準偏差